鮪漁業

Tuna Fishing

——空からみた三崎漁港（アラキカメラ店提供）——

APR 1958
LIBRARY
POFI
FISH & WILDLIFE
SERVICE

鮪漁業　研究会

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNAFISHERY JAPAN

No. 43, 1957

"水産技術者必携の書"

◉画期的『漁業用語英和辞典』出現す!!

農林省水産講習所漁業学科の多年に亘る研究と努力によって集大成された真に生きた必携辞典である。

◆包容語数………………本文約 5,500語
附録約 500語
和文索引，度量衡換算表などを附加する。
10糎×17糎のポケット版，約330頁，表紙は溜色ビニール張り，金文字入の美本。
◆発刊予定期日……………昭和32年11月上旬
◆予約価格 1部につき送料共………約 450 円
◆予約註文受付期限………昭和32年 8 月末日
但し限定出版につき予約註文申込数が予定数に達した場合はこの期限前でも受附を中止することがあるので予め御了承下さい。
印刷の鮮明，装本の堅固，体裁の優美であることは，当社技術陣の矜りとするところで関係各位の予約註文を期待しています

下関市吉見町本町1944
農林省水産講習所漁業学科内
漁業用語英和辞典刊行会

印刷製本者
下関市長崎町2281
瞬報社写真印刷株式会社

専門別執筆者

漁具材料，漁具構成関係………高瀬増男，谷口武夫
沿岸漁業関係……………………片岡昭吉
遠洋漁業関係……………………鶴田三郎，角田精一
航海，運用，漁船関係…………杉原喜義，橋本市雄，広瀬 誠
漁場，海洋，気象関係…………佐藤猛郎
生物関係…………………………前田 弘
時事其の他一般…………………鶴田三郎
執筆並びに文献に対し種々便宜を賜わった人…………朝日向昇平，桜井五郎，千種正則，豊田正謙，巻幡竹夫，渡辺享

校閲者

専門用語…………………………江良至徳
英 語…………………………勢一 斐
其の他の外国語…………………国分直一

編集者
鶴 田 三 郎

——目　次——

鮪漁船紹介　第三清寿丸　第十六海幸丸

鮪漁場図　（昭和32年1月操業）

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年1月現況）……1

1. 調査の概要……1

2. 漁況の概要……1

3. 各漁場の漁況……2

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年1月操業分）別表1……8

月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年1月操業分）別表2……12

賞金十万円がつけられた東部太平洋に於けるキハダ鮪とカツオの標識放流について……20

キハダ鮪の体重の印度洋東西間の比較……永井三夫．中込淳（神奈川水試）……21

Translated

相模丸による大西洋鮪漁場開発第四次航海の概要……25

随筆　三枚の絵……岩吉松之助……27

業界メモ……29

鮪類水揚価格表（三崎）昭和32年8月……30

鮪類標識標流について……11

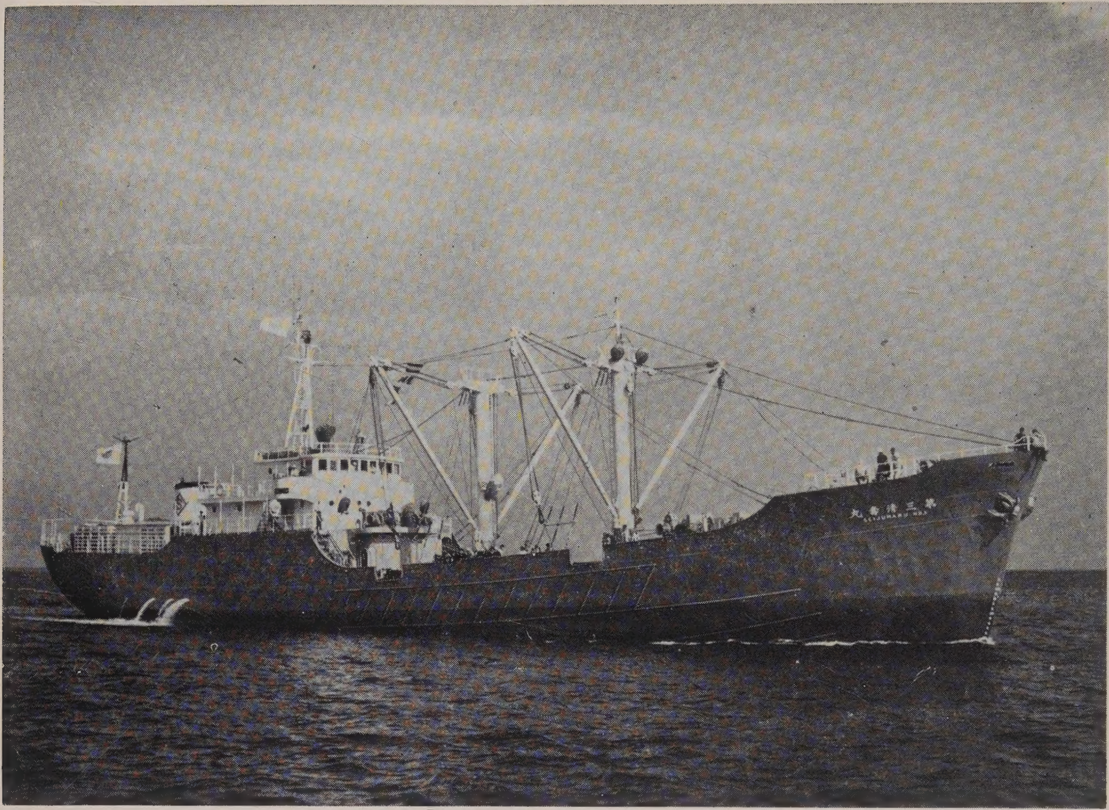
強くて・安くて・腐らない

鮪延縄に絶対経験と信用のあるメーカー

クレモナ テビロン　国産製麻株式会社

本　社　東京都中央区京橋三丁目四番地　電話東京（28）6605・6606番

工　場　栃木県鹿沼市朝日町 電話(鹿沼)242・243番 同上野町 電話(鹿沼) 377番



第三 清寿丸

船　主　清寿漁業株式会社
造船所　株式会社 金指造船所

主要寸法	長 64.00m×幅 11.00m×深 5.30m
総屯数	765.30屯
魚艙容積	1,507m³
燃料油艙	487m³
速力	最大 13.702節
主機	デーゼル(過給機付)1700IP (赤阪鉄工所) 1基
補機	デーゼル 250IP (〃) 2基
無線	500W.75W.10W (安立電波) 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 100IP (日新興業設計施工) 3基

レーダー (安立電波) 方探 (光電製作) 音測兼魚探 (産研) 造水装置 (川崎重工) ベルトコンベア (金指式) 其の他 各1式

竣工	昭和32年6月10日

漁船の冷凍装置に定評ある

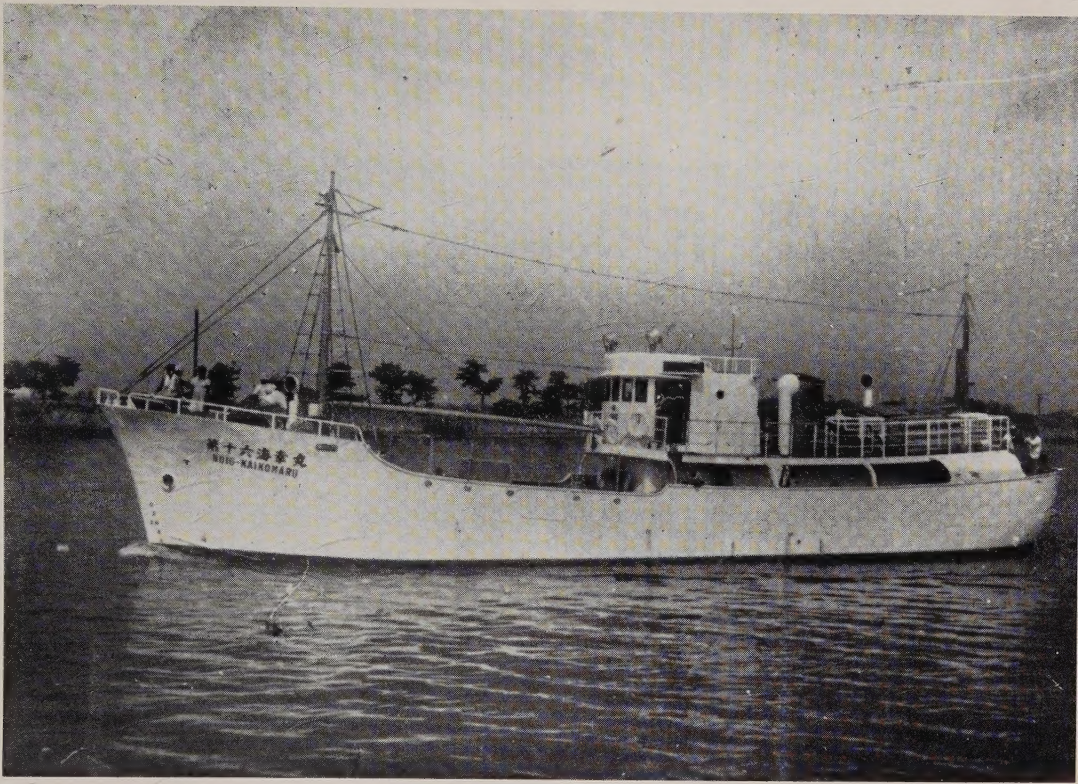
日新興業株

本　社　大阪市北区中之島3の3　(朝日ビル
東京支店　東京都中央区銀座西6の3 (朝日ビル
清水出張所　清水市三保本村四区
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34　金

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社 金指造船所

本社工場	清水市三保4010—19	電話 清水 2380～2 3796～7
塚間工場	清水市三保弁天492	電話 清水 3870～7
東京事務所	東京都港区芝田村町3ノ4	電話 芝(43)7296～8
三崎出張所	三浦市三崎町西野34	電話 (三浦) 851



第十六 海幸丸

船主	柳下漁業株式会社
造船所	徳島造船産業株式会社
主要寸法	長 23.77m×幅 5.30m×深2.60m
総屯数	99.87屯
魚艙容積	約 8000貫
燃料油艙	35KL
速力	最大 11.00節
主機	デーゼル 270IP (松江内燃機) 1基
補機	デーゼル 75IP (新潟鉄工) 1基
無線	75W. 25W (日本無線) 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式7′40IP(日新興業)1基
竣工	昭和32年6月 日

施工船名

第3 清寿丸
第16 海幸丸
第18 新造丸
第12 全功丸
第18 海王丸
昭和丸
(其の他 約参百隻)

式会社

TEL.北浜 (23) 9736—7 (直通)
1334.2351.9531
TEL.銀座 (57) 6804.6810.6811
TEL.清水 3507
造船所三崎出張所内TEL三浦851

赤阪デイーゼル

各種漁船, 捕鯨船, 冷凍運搬船等の主機及び補機に!

50馬力—4,000馬力

株式会社 **赤阪鉄工所**

本社 東京都中央区銀座1丁目3番地 (千成屋ビル)
電話 京橋 (56) 4902～3番
大阪出張所 大阪市西区奥美町30 電話 新町 (53) 3602番
工場 静岡県焼津市 電話 焼津 (代表) 2121～5番

◇新時代の冷凍機◇
（高速多気筒）
ダイヤ冷凍機
（新三菱重工製）
漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設
設計・製作・施工
株式会社 **東洋製作所**

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎(49)代表2171—9番 (49) 2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47(新阪神ビル)
電話 (36)代表 0974—5 (36) 2171—9 (内線350—1)

漁船には専門メーカーの穂高の漁業無線機を
★ 最新の技術と堅牢・高性能を誇る

500W
250W
150W
120W
75W
50W
35W
25W
10W

穂高通信工業株式会社

本社	東京都新宿区下落合1—6	TEL (95) 2595・6219
大阪営業所	大阪市西区京町堀上通2—21協栄ビル	TEL (44) 5792・4109
東京工場	東京都新宿区下落合1—6	TEL (95) 2595・6219
長野工場	長野県南安曇郡穂高町2579	TEL (穂高) 61
代理店	小樽・函館・八戸・気仙沼・石巻・塩釜・小名浜・那珂湊・銚子・三崎・清水・焼津・室戸・下関	

三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

(昭和32年1月現況)

三 崎　鮪漁業研究会　(調査研究部)
神奈川県水産試験場　(資源部鮪担當)
東京，燒津　南海区水産研究所　(遠洋資源部)

1 調査の概要

昭和32年1月分として調査した鮪延縄船数は195, 体長測定船数は139, 調査海区數は24である。

2 漁況の概要

(キ ハ ダ)

ハワイ南西海区5°N以北は不漁、同以南も不漁期であるが比較的高率、0°S以南, 180°W以東の諸海域は上昇途上で特に0°—15°S, 160°—140°Wの海域は好漁期に入つた。西部太平洋亜熱帯海区は不漁、旧南洋庁沿海北部と同南部5°N以北の170°以西は好漁期で低下し始め、同南部5°N以北, 170°E以東はハワイ南西海区5°N以北と同様不漁、同以南とソロモン海区、ニユーカレドニヤ海区は好漁、バンダフロレス海区は晩秋の好漁期から春季の好漁期への過渡期、東部印度洋、中、西部印度洋海区は好漁である。

(メ バ チ)

30°—40°N, 180°—140°Wの海域、ミツドウエー海区、ハワイ南西海区5°Nは好漁北部太平洋は好漁期末期で低下途上、旧南洋庁沿海北部は好漁期前期であるがあまり高くなく、同南部は好漁期で西よりから低下し始めて居り、0°—15°S, 140°—120°Wの海域とタヒチ海区は上昇途上、0°—15°S, 160°—140°Wの海域は不漁期であるが比較的高率、東部印度洋は不漁、中部印度洋海区は好漁、西部印度洋海区は好漁期を過ぎたあとである。

(ビ ン ナ ガ)

南海々区、伊豆諸島東方海区、西部太平洋亞熱帯海区は好漁、30°—35°N, 150°—180°Eの海域は東よりに好漁、30°—40°N, 180°—140°Wの海域の南西端、ミツドウエー海区の北西端も好漁、ソロモン海区0°—10°Sは好漁、10°—15°Sは上昇途上、ニユーカレドニヤ海区は不漁、0°—15°S, 160°—140°Wの海域は不漁、タヒチ海区は好漁東部印度洋105°E以東は不漁、スマトラ西岸沿海6°—10°Sは好漁期であるが例年に比し低率、中、西部印度洋海区は上昇途上で好漁期に入つている。

(ク ロ カ ワ)

赤道以北は不漁、以南のソロモン海区とタヒチ海区は好漁、0°—15°S, 160°—120°

Wの海域は最盛期を過ぎ低下途上、ニユーカレドニヤ海区はなお上昇途上、東部印度洋は好漁期であるが全般的に低率氣味、中部印度洋海区は上昇途上であるが低率、西部印度洋海区も上昇途上である。

（その他のカジキ類）

バンダ、フロレス海区のシロカワは好漁、スマトラ西岸沿海は上昇途上である。ニユーカレドニヤ海区のマカジキは低下し始め、東部印度洋は不漁、中、西部印度洋海区も好漁期を過ぎて低率である。30°—35°N, 150°—180°Eの海域のメカジキは好漁期前期、伊豆諸島東方海区は好漁期末期である。

3 各漁場の漁況

A 0° 以南, 140°W以東の漁場

（0°—15°S, 140°—120°Wの海域）

5°—7°S, 128°—125°Wの海域で2隻が調査されている。

（キ　ハ　ダ）

釣獲率3.51で、秋季の不漁期からの上昇途上にあり、春季に向け更に上昇する。

（メ　バ　チ）

釣獲率3.56で、キハダと同様不漁期からの上昇途上にあるものと推察されるが、最盛期が春季になるか夏季になるかは未だ不明である。

（ク　ロ　カ　ワ）

釣獲率は0.27、11月頃の最盛期を過ぎ低下途上にあり、以西諸海区と同傾向である

B 180°—140°W, 赤道以北の漁場

（30°—40°N, 180°—140°Wの海域、ミッドウエー海区、ハワイ南西海区5°N以北、同以南）

30°—40°N, 180°—140°Wの海域では30°N線を東西に廣く、ミッドウエー海区ではミッドウエー諸島附近、ハワイ南西海区5°N以北は5°—10°N帶を東西に、同以南は170°W以西が調査されている。海流は漁場圖參照のこと。

（キ　ハ　ダ）

ハワイ南西海区5°N以北は不漁期で低率0.20、同以南も不漁期であるが11月と略同率の1.76で例年に比較してかなり高い。ミッドウエー海区は殆んどの船が極めて低率0.01であるが、177°W以西の北西端のみで操業した1隻は0.28を示し、例年の冬季高い傾向と同様である。

ハワイ南西海区5°N以北の体長組成は121—130cmにモードがあり、同海区11月より稍型が小さい。

（メ　バ　チ）

30°—40°N, 180°—140°Wの海域の釣獲率は3.90、ミッドウエー海区は3.28、ハワイ南西海区5°N以北は2.81で、共に好漁期に入り、特に前二者は最盛期である。

体長組成はどの海域も殆んど変化がない。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ミッドウエー海区では北西よりで操業しているので比較的高く1.37、30°—40°N,

180°—140°Wの海域も西端では比較的高く1.0以上である。

（クロカワ）

ミッドウエー海区、ハワイ南西海区5°N以北、同以南はどの海域も不漁期で低率であるが、ハワイ南西海区5°N以南は例年に比較して稍高く0.25である。

C 180°—140°W，赤道以南の漁場

（0°—15°S, 160°—140°Wの海域、タヒチ海区）

0°—15°S, 160°—140°Wの海域は7°—12°Sの153°—141°W、タヒチ海区は北東端が調査されている。

（キハダ）

0°—15°S, 160°—140°Wの海域は好漁期に入つたが、海域によつてかなりの差があり、10°S以北は以南より高く、以北は5.3、4.4、以南は2.7である。タヒチ海区は上昇途上の時期で、10—12月と次第に上昇して来たが、1月は東北端で操業し、12月よりも低い。

0°—15°S, 160°—140°Wの海域の体長組成は12月と変化ない。

（メバチ）

0°—15°S, 160°—140°Wの海域は不漁期であるが、例年より遥かに高く、中程度以上の高率0.90を示している。タヒチ海区は上昇途上にあるが、前者海区より更に低率0.31である。

（ビンナガ）

0°—15°S, 160°—140°Wの海区は12月より更に低下して不漁期に入つたが、10°S以南は以北よりかなり高く、前者1.6、後者0.4である。タヒチ海区は好漁期のようだが、12月の最盛期4.05より激減して、10月と略同率2.38である。

（クロカワ）

0°—15°S, 160°—140°Wの海域は好漁期を過ぎて激減、タヒチ海区は好漁期で1.78を示している。

D 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海北部170°E以西、同以南170°E以西、同以東）

調査された海域、及び海流は漁場圖を参照のこと。

（キハダ）

沿海北部170°E以西及び同南部5°N以北, 170°E以西は秋季の好漁期を過ぎて低下し始め前者0.5、後者0.9、同南部5°N以南, 170°E以西は好漁期であるが秋季の異例的高率から低下して3.4、同170°E以東は5°N以北が不漁、以南は既に春季の好漁期に入つたようで3.7を示している。

体長組成は全般的に12月より稍型が大きい。

（メバチ）

沿海北部170°E以西は好漁期前期であるがあまり高くなく0.85、同南部各海域は好漁期で盛も高いが、西よりから低下し始めて居り、東方海域程高率となつている。5°N以北は西端で0.9、東端で2.7を示している。

体長組成は12月と變化ない。

（ク　ロ　カ　ワ）

どの海域も不漁期で低率である。

E　ソロモン、ニユーカレドニヤ海区漁場

（ソロモン海区、ニユーカレドニヤ海区）

調査された海域、及び海流は漁場圖を參照のこと。

（キ　ハ　ダ）

ソロモン海区 0°—10°S, 170°E 以西は旧南洋庁沿海南部 5°N 以南, 170°E 以西と同傾向であつた秋季の高率から僅かに低下して4.8、同170°E以東は上昇途上にあり2.4で6月頃最盛となる。10°S以南は最盛期であるが12月より低下して3.7、この好漁期は昭和28年以降の漸減から漸増に転じたように感じられる。

ニユーカレドニヤ海区は好漁期で1隻は23°—24°S, 155°—156°Eで3.54であるが、14°—23°S, 153°—159°Eで操業した1隻は1.40で極めて低い。原因不明。

体長組成は12月と同形である。

（メ　バ　チ）

ソロモン海区 0°—10°S, 170°E以西は稍高く0.63を示している。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ソロモン海区 0°—10°S, 170°E 以東は好漁期で極めて高く3.3、10°S 以南は上昇途上にあり1.9を示している。ニユーカレドニヤ海区は不漁期で 23°—24°S, 155°—156°E は 0.90 であるが、14°—23°S, 153°—159°E で操業した1隻は4.29と極めて高く、キハダと同様異例的現象がみられる。

ソロモン海区の体長組成は11月より稍型が大きい。

（ク　ロ　カ　ワ）

ソロモン海区 0°—10°S は秋季の好漁期を過ぎ、170°E 以東はなお高い（0.3）が以西は漸減して来て0.15、10°S 以南は好漁期で0.53、ニユーカレドニヤ海区は上昇途上で0.34を示している。

（マ　カ　ジ　キ）

12月まで比較的好漁（但し年々低下して31年は0.2—0.5）であつたニユーカレドニヤ海区のマカジキは低下し始め、まもなく消滅する。

F　東部印度洋漁場

（バンダ、フロレス海区、小スンダ、チモール沿海、ジヤワ沿海、濠洲西方海区、スマトラ西岸沿海）

調査された海域、及び海流は漁場圖參照のこと。

（キ　ハ　ダ）

バンダ、フロレス海区は晩秋の好漁から春季の好漁への過渡期で、12月より一時的に低下し2.03、小スンダ、チモール沿海、ジヤワ沿海、及び濠洲西方海区 110°E 以東は好漁期でかなり高率、スマトラ西岸沿海 6°—10°S も2.80でかなり高いが變化の傾向は不明である。

Table 1. 東部印度洋キハダの分布 (32.1)

0°–8°S			2.03
6°S–10°S	2.75	2.05	2.65
10°S–12°S			1.39
12°S–20°S			1.60
20°S–30°S		2.96	

体長組成はどの海域も12月より型の大きいものが増え、各海域間を比較すると西南よりに型が大きくなつている。

（メ　バ　チ）

各海域共不漁期にあつて低率であり、スマトラ西岸沿海も9月から次第に低下して低率となつたが、他海域に比較すれば稍高い。釣獲率は1.2。

（ビ　ン　ナ　ガ）

105°E以東のどの海域も不漁期で殆んど釣れていない。スマトラ西岸沿海6°—10°Sは好漁期であるが、例年に比較して極めて低い。

（インドマグロ）

小スンダ、チモール沿海10°S以南とジヤワ沿海10°S以北に多少残存して居り、釣獲率は1.0附近である。

（ク　ロ　カ　ワ）

バンダ、フロレス海区と小スンダ、チモール沿海12°S以北は好漁期と思われるが極めて不漁、同沿海12°Sから20°Sにかけての海域は9月の好漁期を過ぎ春季の好漁期への過渡期であるが極めて低率である。ジヤワ沿海12°S以北は好漁期であるが、12月に僅か上昇したのみで極めて低率、濠洲西方海区110°E以東も不漁、スマトラ西岸沿海6°—10°Sは7月以降12月までの漸減から稍上昇に転じて0.43を示している。

（シ　ロ　カ　ワ）

バンダ、フロレス海区は急激に上昇して1.35の高率、濠洲西方海区の16°—20°S, 115°—120°Eの海域も比較的高く0.86、スマトラ西岸沿海6°—10°Sは上昇途上で0.5を示している。

体長組成は、バンダ、フロレス海区は12月と同形で型の小さいものが多く131—140cmにモードがあるが、他海域は小型の群が消滅した。

（マ　カ　ジ　キ）

濠洲西方海区のマカジキが11月を山に低下して来、全海域不漁となつた。スマトラ西岸沿海も同様である。

G　中、西部印度洋漁場

（中部印度洋海区、西部印度洋海区）

中部印度洋では8°—10°S帯、西部印度洋では5°—10°S帯を東端から西端にわたつて調査されている。海流については漁場圖を参照のこと。

（キ　ハ　ダ）

中部印度洋海区の釣獲率は10°Sの南北で非常に異り、以北5.8附近、以南1.6附近従つて以北の中部印度洋海区は最盛期に入つた。西部印度洋海区も海域によつて差があるが、中部印度洋海区のように規則性はない。全般的に上昇途上にあるが、此の海

区は年々減少しているので、5隻の内3隻が示している3.80の釣獲率をもつて、この1、2月が最高となり、後低下する傾向が強い。

体長組成は12月と同形である。

（メ　バ　チ）

中部印度洋海区は好漁期で1.63、西部印度洋海区は好漁期を過ぎて0.7を示している。

（ビ　ン　ナ　ガ）

両海区とも上昇途上であるが好漁期に入つた。中部印度洋海区は10°Sの南北で非常に異り、以北0.9、以南3.7、西部印度洋海区は10°S線による南北の差はみられず、平均0.73、最盛期は5月頃と推察される。

体長組成は12月と同形である。

（ク　ロ　カ　ワ）

中部印度洋海区は上昇期に当るが未だ低率で0.17、西部印度洋は上昇途上で0.27を示している。

（マ　カ　ジ　キ）

中部印度洋海区は低下途上で不漁期に入り0.11、西部印度洋海区も好漁期を過ぎたあとで0.09を示し低率である。

H　北部太平洋漁場

（30°—35°N, 150°—180°Eの海域、東北海区、伊豆諸島東方海区、南海々区、西部太平洋亜熱帯海区）

調査された海域、及び海流は漁場圖を参照のこと。

（キ　ハ　ダ）

南海々区はこの海区としては好漁で0.25、西部太平洋亜熱帯海区170°E以西は不漁期で0.12を示している。

（メ　バ　チ）

どの海域も好漁期末期で低下途上にある。

体長組成は12月と殆んど變わらないが、南海々区は131—140cmの山が消滅して型が小さくなつている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

伊豆諸島東方海区、南海々区、西部太平洋亜熱帯海区は12月から激昇して好漁期に入り極めて高率である。30°—35°N, 150°—180°Eの海域は東よりに高率となつて居り150°—160°Eが0.34、160°—170°Eが2.47、170°—180°Eは3.59を示している。

体長組成はあまり變化ないが、西部太平洋亜熱帯海区は12月より稍型が小さい。

（ク　ロ　カ　ワ）

西部太平洋亜熱帯海区は不漁期で低率が続いている。

（マカジキ、メカジキ）

西部太平洋亜熱帯海区のマカジキは秋季の好漁期の末期でなお比較的高く0.12を示

しているが、同海域内では150°—160°Eが0.18で最も高い。メカジキは30°—35°N，150°—180°Eの海域が好漁期前期、伊豆諸島東方海区が好漁期末期で、前者0.42、後者0.70を示している。

メカジキの体長組成は両海区同形である。

永井三夫、中込淳；太西洋赤道附近の鮪資源の一知見，鮪漁業42，1957の正誤表

頁	行	誤	正
21	8	始めた——— いるので	始めると——— 年々——いくので
21	圖1	南西フ	南西アフリカ
22	圖2	觀測点14	12
〃	〃	13の北方の番号のない点	14
25	7	季節化	季節変化
26	19	ThE oɔean	The ocean

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻數	水温 (c°)	流向 流速	操業回數	漁具數	鈎數		まぐろ きはだ	めばち
0°— 15°S 140°— 以東	5°— 7°S 128°—125°W	2	24.7 26.0		54	30,140	138,500	尾數 %	4862 3.51	4931 3.56
30°— 40°N 180°—140°W	28°— 35°N 179°—146°W	4	17.2 21.5		103	37,067	169,149		40 0.02	6592 3.90
ミッドウエー	28°— 31°N 178°E-169°W	5	17.8 9.7		121	41,659	175,376		134 0.08	5745 3.28
ハワイ南西 (5°N 以北)	4°— 10°N 180°—159°W	6	25.5 28.1		126	44,405	186,870		366 0.20	5259 2.81
ハワイ南西 (5°N 以南)	2°S— 5°N 179°—169°W	1 (1)	27.0 29.3		30	11,105	44,420		782 1.76	319 0.72
0°— 15°S 160°—140°W	7°— 12°S 153°—141°W	2 (1)	26.4 28.6		65	26,408	117,112		5319 4.54	1058 0.90
タヒチ	13°— 19°S 144°—139°W	1	27.4 28.8		25	10,390	41,560		383 0.92	129 0.31
南洋北部	9°— 21°N 146°—151°E	4	26.0 28.2		70	20,185	92,585		459 0.50	787 0.85
南洋南部 (170°E以西)	1°S— 10°N 134°—172°E	22 (2)	26.8 30.6		382	130,875	597,414		12830 2.15	6771 1.13
南洋南部 (170°E以東)	1°— 10°N 168°—179°E	5	27.0 29.8		92	34,160	150,238		4698 3.13	1718 1.14
ソロモン	1°N— 13°S 136°—175°E	26 (1)	26.3 31.5		498	176,583	799,000		35893 4.49	4342 0.54
ニューカレドニヤ	14°— 24°S 153°—159°E	2	26.4 28.3		42	15,752	71,720		1938 2.70	76 0.11
バンダフロレス	4°— 7°S 121°—134°E	1 (2)	27.9 29.4		32	11,672	49,498		1004 2.03	155 0.31
小スンダチモール	8°— 16°S 117°—130°E	9	26.8 32·5		178	66,839	294,841		5902 2.00	1013 0.34
ジヤワ沿海	8°— 10°S 105°—113°E	3	27.5 29.7		57	23,162	95,688		1961 2.05	662 0.69
濠洲西方	16°— 22°S 113°—120°E	5	26.2 29.8		107	48,230	186,160		3069 1.65	212 0.11
スマトラ西岸	6°— 10°S 93°—105°E	2	27.9 28.8		41	16,254	67,743		1865 2.75	840 1.24
中部印度洋	6°— 12°S 72°— 92°E	9 (1)	27.1 30.1		210	85,679	394,024		16811 4.27	6413 1.63
西部印度洋	1°— 11°S 41°— 71°E	4 (1)	26.5 30.0		168	69,290	285,585		19640 6.88	1907 0.67
30°— 35°N 150°—180°E	29°— 36°N 148°—176°E	4	16.7 19.2		72	17,356	93,790		1 0.00	678 0.72

（昭和32年1月操業分）

（別表1）A

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
73			368	8	33	49	2	147	169		10642	サメ未調査 2
0.05			0.27	0.01	0.02	0.04	0.00	0.11	0.12		7.68	体測隻数 0
679	1		8		62	132	4	6	49	109	7712	3
0.40	0.00		0.00		0.05	0.08	0.00	0.00	0.03	0.06	4.56	4
2404	1		3		119	120			123	455	9104	1
1.37	0.00		0.00		0.07	0.07			0.07	0.26	5.19	4
2			362	16	108	31	26	3	244		6417	6
0.00			0.19	0.01	0.06	0.02	0.01	0.00	0.13		3.43	6
22			111	6	4	2	5		6		1257	2
0.05			0.25	0.01	0.01	0.00	0.01		0.01		2.83	0
1020			415	28	7	7					7854	3
0.87			0.35	0.02	0.01	0.01					6.71	2
991			741	7	6	2	2		21		2282	0
2.38			1.78	0.02	0.01	0.00	0.00		0.05		5.49	1
8			72	4	89	12	15	74	380	426	2326	1
0.01			0.08	0.00	0.10	0.01	0.02	0.08	0.41	0.46	2.51	4
141			1742	58	491	85	201	7	446	536	23308	17
0.02			0.29	0.01	0.08	0.01	0.03	0.00	0.07	0.09	3.90	17
192			580	29	51	31	15		7		7321	5
0.13			0.39	0.02	0.03	0.02	0.01		0.00		4.87	3
3427			1790	186	180	50	785	139	375	383	47550	24
0.43			0.22	0.02	0.02	0.01	0.10	0.02	0.05	0.05	5.95	19
1597			247	70	254	13	33	4	157		4389	2
2.23			0.34	0.10	0.35	0.02	0.05	0.01	0.22		6.12	1
			53	836	9	6	34	2	62	92	2253	1
			0.11	1.69	0.02	0.01	0.07	0.00	0.13	0.19	4.55	1
749		3784	336	663	130	63	198	186	304	223	13551	7
0.25		1.28	0.11	0.22	0.04	0.02	0.07	0.06	0.10	0.08	4.60	4
194		1249	155	136	35	11	17		1		4421	3
0.20		1.31	0.16	0.14	0.04	0.01	0.02		0.00		4.62	3
873		1786	160	1469	236	32	116	1	33	394	8381	4
0.45		0.96	0.09	0.79	0.13	0.02	0.06	0.00	0.02	0.21	4.50	2
456		471	285	85	43	28	35	21	52		4181	2
0.67		0.70	0.42	0.13	0.06	0.04	0.05	0.03	0.08		6.17	1
3454			663	317	431	78	69		196		28432	9
0.88			0.17	0.08	0.11	0.02	0.02		0.05		7.22	5
2075			773	168	253	171	203		13		25203	4
0.73			0.27	0.06	0.09	0.06	0.07		0.00		8.83	2
1897					25	395		101	15	50	3162	2
2.02					0.03	0.42		0.11	0.02	0.05	3.37	4

漁場	操業区域	調査隻數	水温 (c°)	流向	流速	操業回數	漁具數	鈎數		ま	
										きはだ	めばち
東北海区	34°— 40°N 147°—152°E	2	17.2 18.8			27	5,211	31,059	尾數 %		215 0.69
伊豆東方	30°— 36°N 139°—152°E	16	16.5 20.0			235	33,793	215,938		65 0.03	1513 0.70
南海々区	29°— 33°N 133°—140°E	5	18.2 20.7			57	9,665	57,635		131 0.23	306 0.53
西部太平洋	19°— 32°N 130°E—179°W	55	17.3 27·9			929	229,235	1,137,320		1382 0.12	6093 0.54
計	24	195 (9)				3721	1,195,115	5,493,225		119535 2.18	57734 1.05

（別 表 1）B

ぐ　ろ			か　じ　き						かつお	雑	さめ	計	記　事
びんなが	黒まぐろ	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう						
74					3	331			1	1191	1815	サメ未調査 0
0.24					0.01	1.07			0.00	3.83	5.84	体測隻数 1
3863					30	1511		12	14	5271	12279	1
1.79					0.01	0.70		0.01	0.01	2.44	5.96	10
1959			1		28	79		5	24	283	2816	0
3.40			0.00		0.05	0.14		0.01	0.04	0.49	4.89	4
38686			127	8	1315	540	44	1083	764	3323	53365	14
3.40			0.01	0.00	0.12	0.05	0.00	0.10	0.07	0.29	4.69	41
64836	2	7290	8992	4094	3972	3779	1804	1791	3456	12736	290021	113
1.18	0.00	0.13	0·16	0.07	0.07	0.07	0·03	0.03	0.06	0.23	5.28	139

鮪類標識放流について

1. 昭和32年6月1日から7月31日迄の間に標識の委託をなした船數は1隻（5本）である。
2. 昭和32年6月1日から7月31日迄の間に放流実施の報告のあつた船數は2隻（14尾）である。

放流実施船名及び実施の概要

船　名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚　種（尾數）
1さつま丸	C 0271	32. 6. 27	4°—55′ N 138°—45′ W	きはだ(1)
相模丸	C 0336 —340	32. 5. 4	1°—44′ N 17°—03′ W	きはだ(4) めばち(1)
〃	C 0341 —346	32. 5. 17	1°—48′ N 8°—14′ W	きはだ(5) めばち(1)
〃	C 0334 —350	32. 5. 17	1°—48′ N 8°—14′ W	きはだ(2)

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年1月操業分）

（別表2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		50 cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm以上	計	漁獲尾数
き	2	30°—40°N 180°—140°W	28°—32°N 179°—146°W	47	尾数 %					7 19.4	7 19.4	12 33.3	5 13.9	3 8.3	1 2.8		1 2.8			36 100	37
	5	ハワイ南西 (5°N以北)	4°—10°N 178°—159°W	106					1 0.9	1 0.9		8 7.1	21 18.6	27 23.9	20 17.7	18 15.9	4 3.5	6 5.3	7 6.2	113 100	245
	1 (1)	0°—15°S 160°—140°W	7°—12°S 153°—141°W	47										5 2.2	73 31.6	143 61.9	10 4.3			231 100	3996 (4153)
	4	南洋北部	9°—21°N 146°—151°E	70				3 1.3	26 11.6	29 12.9	34 15.2	19 8.5	58 25.9	44 19.6	9 4.0	2 0.9				224 100	459
	17	南洋南部 (170°E以西)	0°—10°N 134°—172°E	290				5 0.3	28 1.5	52 2.8	79 4.2	581 31.2	682 36.7	306 16.5	96 5.2	26 1.4	5 0.3			1860 100	9659
	3	南洋南部 (170°E以東)	1°—10°N 169°—179°E	52							1 0.3	38 11.1	167 48.7	55 16.0	58 16.9	19 5.5	5 1.5			343 100	2558 (2822)
	19	ソロモン	1°N—13°S 136°—175°E	355				11 0.3	9 0.3	73 2.0	452 12.6	1746 48.5	833 23.2	240 6.7	142 3.9	73 2.0	18 0.5	1 0.0		3598 100	26194 (26872)
は	1	バンダ フロレス	4°—7°S 132°—134°E	18							1 0.6	34 20.7	71 43.3	44 26.8	9 5.5	5 3.0				164 100	609
	4	小スンダ チモール	8°—15°S 119°—130°E	71						4 0.9	10 2.3	15 3.4	135 30.8	132 30.1	76 17.4	55 12.6	11 2.5			438 100	2974 (3550)
	3	ジヤワ沿海	8°—10°S 105°—113°E	57					4 1.0	18 4.7	21 5.5	15 3.9	61 15.9	66 17.2	94 24.5	80 20.9	22 5.7	2 0.5		383 100	1961
だ	2	濠洲西方	16°—22°S 113°—117°E	40									4 2.1	29 14.9	35 17.9	87 44.6	33 16.9	7 3.6		195 100	1535
	1	スマトラ西岸	8°—10°S 93°—94°E	14					5 4.9	9 8.8			5 4.9	16 15.7	15 14.7	31 30.4	17 16.7	4 3.9		102 100	1042
	5 (1)	中部印度洋	6°—12°S 72°—92°E	122				3 0.2	8 0.6	5 0.4	2 0.2	6 0.5	54 4.3	146 11.7	200 16.1	489 39.3	285 22.9	46 3.7	1 0.1	1245 100	10415 (10980)
	2	西部印度洋	1°—10°S 46°—71°E	51							14 2.8	4 0.8	7 1.4	41 8.3	66 13.3	241 48.6	116 23.4	7 1.4		496 100	6719
	6	伊豆東方	30°—34°N 139°—143°E	88					6 13.6	2 4.5	1 2.3	3 6.8	16 36.4	7 15.9	2 4.5	6 13.6	1 2.3			44 100	48

	4	南海々区	29°— 33°N 133°—140°E	48						3 7.5	3 7.5	3 7.5	13 32.5	7 17.5	2 5.0	6 15.0	2 5.0	1 2.5		40 100	128
	36	西部太平洋	19°— 31°N 134°E-179°W	595				19 3.4	61 10.8	65 11.5	47 8.3	103 18.2	96 17.0	92 16.3	49 8.7	26 4.6	6 1.1	1 0.2		565 100	922

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計	漁獲尾数
め	4	30°— 40°N 180°—140°W	28°— 35°N 179°—146°W	103	尾数 %			32 7.6	6 1.4	61 14.6	80 19.1	89 21.2	30 7.2	22 5.3	45 10.7	37 8.8	10 2.4	6 1.4	1 0.2	419 100	6592
	3	ミッドウエー	28°— 31°N 178°—169°W	75				5 0.6	17 2.2	346 44.3	309 39.6	32 4.1	3 0.4	20 2.6	35 4.5	10 1.3	3 0.4	1 0.1		781 100	3476
	6	ハワイ南西 (5°N以北)	4°— 10°N 180°—159°W	126					3 0.4	33 3.9	70 8.4	133 15.9	104 12.4	93 11.1	137 16.3	159 19.0	60 7.2	33 3.9	13 1.6	838 100	5259
	1 (1)	0°— 15°S 160°—140°W	7°— 12°S 153°—141°W	47							2 3.8	4 7.5	4 7.5	10 18.9	7 13.2	5 9.4	17 32.1	2 3.8	2 3.8	53 100	775 (787)
ば	4	南洋北部	9°— 21°N 146°—151°E	70			21 6.8	9 2.9	17 5.5	44 14.1	27 8.7	27 8.7	18 5.8	85 27.3	43 13.8	15 4.8	3 1.0	2 0.6		311 100	787
	17 (1)	南洋南部 (170°E以西)	0°— 10°N 134°—172°E	303			16 0.7	10 0.4	192 8.3	680 29.2	248 10.7	218 9.4	251 10.8	335 14.4	217 9.3	106 4.6	32 1.4	15 0.6	5 0.2	2325 100	5302 (5385)
	3	南洋南部 (170°E以東)	0°— 10°N 169°—179°E	52				1 0.4	3 1.3	16 7.0	37 16.1	34 14.8	21 9.1	38 16.5	31 13.5	32 13.9	7 3.0	2 0.9	8 3.5	230 100	1081 (1245)
	17	ソロモン	1°N — 13°S 136°—175°E	329			12 1.0	2 0.2	84 6.9	316 25.9	171 14.0	149 12.2	166 13.6	231 18.9	68 5.6	13 1.1	7 0.6			1219 100	3387
ち	1	ニユー カレドニヤ	14°— 23°S 153°—159°E	18				1 4.3		2 8.7	3 13.0	2 8.7	1 4.3	4 17.4	6 26.1	4 17.4				23 100	48 (56)
	1	バンダ フロレス	4°— 7°S 132°—134°E	18							1 4.5	3 13.6	7 31.8	7 31.8	4 18.2					22 100	56
	3	小スンダ チモール	8°— 15°S 120°—130°E	56				3 1.4		3 1.4	17 7.7	43 19.5	43 19.5	69 31.4	28 12.7	14 6.4				220 100	240 (339)
	3	ジャワ沿海	8°— 10°S 105°—113°E	57						11 4.7	18 7.7	56 24.0	53 22.7	60 25.8	19 8.2	13 5.6	3 1.3			233 100	662
	2	濠洲西方	16°— 22°S 113°—117°E	40					1 6.3	1 6.3		2 12.5	1 6.3	7 43.8	3 18.8	1 6.3				16 100	97
	1	スマトラ西岸	8°— 10°S 93°— 94°E	14						2 3.3	1 1.6	6 9.8	9 14.8	21 34.4	14 23.0	6 9.8	2 3.3			61 100	363

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		60 cm以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	18 cm以上	計	漁獲尾数
め	5 (1)	中部印度洋	6°— 12°S 72°— 92°E	122	尾数		1	3	1	8	17	65	99	147	127	137	31	4		640	3230
					%		0.2	0.5	0.2	1.3	2.7	10.2	15.5	23.0	19.8	21.4	4.8	0.6		100	(3627)
	2	西部印度洋	1°— 10°S 46°— 71°E	51					2		2	3	6	24	12	21	14	3		87	600
									2.3		2.3	3.4	6.9	27.6	13.6	24.1	16.1	3.4		100	
ば	4	30°— 35°N 150°—180°E	29°— 36°N 148°—176°E	72					3	100	82	30	2	7	12	4	2	1	1	244	678
									1.2	41.0	33.6	12.3	0.8	2.9	4.9	1.6	0.8	0.4	0.4	100	
	1	東北海区	35°— 37°N 147°—152°E	15						5	9	5	3	3	2	3				30	117
										16.7	30.0	16.7	10.0	10.0	6.7	10.0					
	9	伊豆東方	30°— 37°N 139°—152°E	140				3	10	388	80	62	33	6	7	3	2			594	908
								0.5	1.7	65.3	13.5	10.4	5.6	1.0	1.2	0.5	0.3			100	
ち	4	南海々区	29°— 33°N 133°—140°E	48			2	2	5	75	21	21	4	7	1	1				139	249
							1.4	1.4	3.6	54.0	15.1	15.1	2.9	5.0	0.7	0.7				100	
	40	西部太平洋	19°— 32°N 134°E-179°W	664			82	47	60	575	147	212	78	373	416	263	109	30	4	2396	4915
							3.4	2.0	2.5	24.0	6.1	8.8	3.3	15.6	17.4	11.0	4.5	1.3	0.2	100	

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	40 cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上	計	漁獲尾数
び	3	30°— 40°N 180°—140°W	28°— 35°N 179°—146°W	80				2	31	60	58	25	2		178	558
								1.1	17.4	33.7	32.6	14.0	1.1		100	
	4	ミッドウエー	28°— 31°N 178°E-169°W	98				7	23	87	100	35	3		255	1420
								2.7	9.0	34.1	39.2	13.7	1.2			
	3	南洋北部	16°— 21°N 146°—151°E	53						1	3		2		6	6
										16.7	50.0		33.3		100	
	3	南洋南部 (170°E以西)	0°— 10°N 145°—172°E	53						14	19	4	4		41	96
										34.1	46.3	9.8	9.8		100	
	1	南洋南部 (170°E以東)	1°— 4°N 169°—171°E	12						4	6	2			12	22
										33.3	50.0	16.7			100	(36)
ん	10	ソロモン	1°N—13°S 139°—162°E	183						63	112	10	3		188	900
										33.5	59.6	5.3	1.6		100	(1002)
	3	小スンダ チモール	8°— 15°S 119°—130°E	57							29	3	1		33	328
											87.9	9.1	3.0		100	(328)
	3	ジャワ沿海	8°— 10°S 105°—113°E	57						6	59	3			68	194
										8.8	86.8	4.4			100	

なが	1	スマトラ西岸	8°— 10°S 93°— 94°E	14								14 31.8	29 65.9	1 2.3					44 100	409
	3	中部印度洋	8°— 12°S 84°— 92°E	58							2 1.7	53 44.9	53 44.9	10 8.5					118 100	994
	2	30°— 35°N 150°—180°E	29°— 35°N 160°—172°E	40					40 20.3	64 32.5	85 43.1	5 2.5	3 1.5						197 100	1762
	1	東北海区	35°— 37°N 147°—152°E	15					4 5.6	8 13.1	29 47.5	9 14.8	6 9.8	4 6.6	1 1.6				61 100	61
	5	伊豆東方	30°— 37°N 140°—152°E	70					4 1.3	210 70.2	84 28.1	1 0.3							299 100	1466
	4	南海々区	29°— 33°N 133°—140°E	48						33 24.4	81 60.0	15 11.1	6 4.4						135 100	1264
	37	西部太平洋	19°— 32°N 134°E-179°W	632					11 0.4	442 17.2	1750 68.0	228 8.9	106 4.1	36 1.4	1 0.0				2574 100	23899

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	120 cm以下	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241 cm以上	計	漁獲尾数
くろまぐろ	3	小スンダ チモール	8°— 15°S 119°—130°E	57	1 0.4		15 6.4	31 13.1	94 39.8	78 33.1	17 7.2								236 100	1312 (1312)
	3	ジャワ沿海	8°— 10°S 105°—113°E	57			5 1.8	50 18.3	126 46.3	79 29.0	12 4.4								272 100	1249
	1	濠洲西方	16°— 20°S 115°—117°E	20			8 6.2	57 44.2	52 40.3	12 9.3									129 100	460

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm以上	計	漁獲尾数
くろかわ	1	30°— 40°N 180°—140°W	29°— 32°N 175°—146°W	26										1 33.3	2 66.7					3 100	3
	1	ミッドウェー	28°— 31°N 178E°-172°W	27														1 50.0	1 50.0	2 100	2
	6	ハワイ南西 (5°N以北)	4°— 10°N 180°—159°W	126	19 10.0	35 18.4	27 14.2	28 14.7	29 15.3	5 2.6	6 3.2	7 3.7	12 6.3	8 4.2	8 4.2		5 2.6	1 0.5		190 100	362
	1	0°— 15°S 160°—140°W	7°— 10°S 149°—141°W	30					2 66.7			1 33.3								3 100	170
	4	南洋北部	9°— 21°N 146°—151°E	70	1 3.3	12 40.0	4 13.3	2 6.7	5 16.7	2 6.7		1 3.3	1 3.3			1 3.3	1 3.3			30 100	72

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数		130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
くろかわ	17 (1)	南洋南部 (170°E以西)	0°—10°N 134°—172°E	303	尾数 %	24 3.8	72 11.4	126 20.0	126 20.0	113 17.9	34 5.4	23 3.7	32 5.1	30 4.8	23 3.7	9 1.4	9 1.4	2 0.3	3 0.5	4 0.6	630 100	1489 1507
	3	南洋南部 (170°E以東)	0°—10°N 169°—179°E	52		4 1.7	11 4.8	28 12.2	30 13.0	50 21.7	20 8.7	15 6.5	22 9.6	23 10.0	15 6.5	6 2.6	5 2.2			1 0.4	230 100	341 (381)
	17	ソロモン	1°N—13°S 136°—175°E	328		15 2.5	69 11.4	160 26.5	105 17.4	94 15.6	28 4.6	36 6.0	35 5.8	24 4.0	13 2.2	15 2.5	4 0.7	2 0.3	3 0.5	1 0.2	604 100	1108 (1147)
	1	ニューカレドニヤ	14°—23°S 153°—159°E	18			6 6.1	14 14.3	14 14.3	34 34.7	4 4.1	5 5.1	1 1.0	5 5.1	3 3.1	6 6.1	3 3.1	2 2.0	1 1.0		98 100	103 (153)
	1	バンダ フロレス	4°—7°S 132°—134°E	18				2 13.3		4 26.7	4 26.7	4 26.7			1 6.7						15 100	48
	4	小スンダ チモール	8°—15°S 119°—130°E	71			5 6.6	5 6.6	5 6.6	16 21.1	7 9.2	17 22.4	3 3.9	4 5.3	2 2.6	3 3.9	7 9.2		1 1.3	1 1.3	76 100	122 (130)
	2	ジャワ沿海	9°—10°S 105°—110°E	32				1 1.7	3 5.1	10 16.9	24 40.7	15 25.4		1 1.7	4 6.8	1 1.7					59 100	106
	1	濠洲西方	19°—22°S 113°—115°E	20			6 33.3	2 11.1	2 11.1	1 5.6	3 16.7	1 5.6	2 11.1			1 5.6					18 100	24
	1	スマトラ西岸	8°—10°S 93°—94°E	14						3 17.6	3 17.6	4 23.5		4 23.5		1 5.9	2 11.8				17 100	94
	5	中部印度洋	6°—12°S 72°—92°E	111					9 5.9	30 20.0	33 22.0	18 12.0	13 8.7	7 4.7	17 11.3	13 8.7	7 4.7	2 1.3		1 0.7	150 100	324
	2	西部印度洋	1°—10°S 46°—71°E	51		1 1.2		1 1.2	1 1.2	22 26.8	24 29.3	8 9.8	12 14.6	4 4.9	2 2.4	1 1.2	4 4.9	2 2.4			82 100	269
	1	南海々区	30°—32°N 133°—140°E	13														1 10.0			1 100	1
	13	西部太平洋	19°—30°N 135°—170°E	235		2 3.2	6 9.7	2 3.2	2 3.2	7 11.3	2 3.2	9 14.5	6 9.7	8 12.9	5 8.1	2 3.2	3 4.8	3 4.8	3 4.8	2 3.2	62 100	73

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾數
しろかわ	2	ハワイ南西 (5°N以北)	6°—10°N 179°—168°W	41		2 18.2	5 45.5			1 9.1		1 9.1						2 18.2		11 100	12
	3	南洋南部 (170°E以西)	1°S—6°N 135°—149°E	50	1 11.1			2 22.2	1 11.1			1 11.1			1 11.1		2 22.2		1 11.1	9 100	16
	2	南洋南部 (170°E以東)	0°—4°N 169°—173°E	34						2 25.0	1 12.5	2 25.0				1 12.5		1 12.5	1 12.5	8 100	14 (18)
	11	ソロモン	1°N—13°S 136°—175°E	222			8 11.6	16 23.2	6 8.7	5 7.2	10 14.5	7 10.1	6 8.7	2 2.9	2 2.9	3 4.3		1 1.4	3 4.3	69 100	113
	1	バンダ フロレス	4°—7°S 132°—134°E	18	14 5.4	101 38.7	81 31.0	19 7.3	8 3.1	11 4.2	16 6.1	8 3.1	2 0.8	1 0.4						261 100	822
	4	小スンダ チモール	8°—15°S 119°—130°E	71	5 2.9	9 5.3	6 3.5	19 11.1	9 5.3	19 11.1	28 16.5	23 13.5	23 13.5	13 7.6	8 4.7	1 0.6	3 1.8	2 1.2	2 1.2	170 100	269 (298)
	3	ジャワ沿海	8°—10°S 105°—113°E	57		1 1.3	6 7.6	5 6.3	5 6.3	9 11.4	13 16.5	10 12.7	12 15.2	9 11.4	3 3.8	4 5.1		2 2.5		79 100	136
	1	濠洲西方	19°—22°S 113°—115°E	20			1 3.3		1 3.3		4 13.3	4 13.3	6 20.0	3 10.0	7 23.3	2 6.7	1 3.3	1 3.3		30 100	175
	1	スマトラ西岸	8°—10°S 93°—94°E	14								1 11.1	5 55.6			3 33.3				9 100	28
	4 (1)	中部印度洋	6°—12°S 78°—92°E	97	1 1.4		2 2.9	3 4.3	1 1.4	1 1.4	14 20.0	14 20.0	13 18.6	12 17.1	5 7.1	1 1.4		2 2.9	1 1.4	70 100	120 (129)
	2	西部印度洋	1°—10°S 46°—71°E	51		1 3.1	1 3.1	3 9.4	1 3.1	3 9.4	9 28.1	6 18.8	3 9.4	3 9.4		1 3.1	1 3.1			32 100	55

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
まかじき	4	30°—40°N 180°—140°W	28°—35°N 179°—146°W	103						3 3.8	3 3.8	4 5.0	18 22.5	35 43.8	17 21.3					80 100	92
	3	ミッドウェー	28°—31°N 178°E-169°W	75					1 1.4		4 5.6	5 7.0	16 22.5	34 47.9	11 15.5					71 100	80
	4	ハワイ南西 (5°N以北)	4°—10°N 178°—159°W	91		4 7.1	16 28.6	1 1.8	3 5.4	4 7.1	16 28.6	2 3.6	4 7.1	4 7.1	2 3.6					56 100	59
	4	南洋北部	9°—21°N 146°—151°E	70	1 1.4	8 11.3	7 9.9	2 2.8	28 39.4	11 15.5	10 14.1	3 4.2	1 1.4							71 100	89

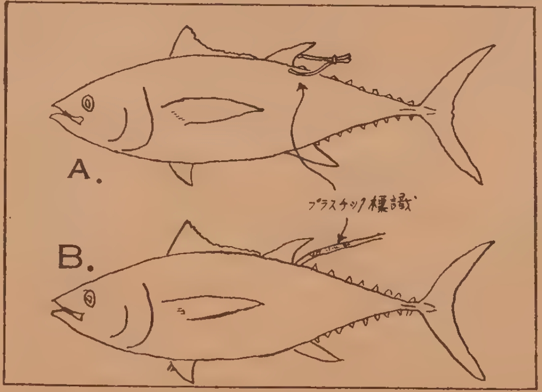
魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
まかじき	12 (1)	南洋南部 (170°E以西)	0°—10°N 134°—165°E	209	6 2.1	74 25.4	62 21.3	19 6.5	61 21.0	23 7.9	19 6.5	12 4.1	8 2.7	4 1.4	1 0.3			1 0.3	1 0.3	291 100	472 (475)
	1	南洋南部 (170°E以東)	6°—10°N 176°—179°E	18		10 20.0	19 38.0	9 18.0	1 2.0	2 4.0	6 12.0		3 6.0							50 100	50
	4	ソロモン	1°—11°S 142°—175°E	83		2 3.3	8 13.1	1 1.6			2 3.3		2 3.3	5 8.2	21 34.4	17 27.9		3 4.9		61 100	170
	1	ニユーカレドニヤ	14°—23°S 153°—159°E	18			1 5.6							3 16.7	3 16.7	8 44.4	3 16.7			18 100	97 (98)
	1	バンダフロレス	4°—7°S 132°—134°E	18						1 33.3	2 66.7									3 100	6
	4	小スンダチモール	8°—15°S 119°—130°E	71				2 7.4	5 18.5	5 18.5	11 40.7	2 7.4	2 7.4							27 100	44 (51)
	2	ジヤワ沿海	8°—10°S 105°—113°E	45					9 40.9	3 13.6	6 27.3		4 18.2							22 100	23
	1	濠洲西方	19°—22°S 113°—115°E	20					4 66.7			1 16.7		1 16.7						6 100	25
	1	スマトラ西岸	8°—10°S 93°—94°E	14						1 33.3				2 66.7						3 100	9
	4	中部印度洋	6°—11°S 72°—90°E	86					5 5.0	5 5.0	4 4.0	3 3.0	19 19.0	51 51.0	12 12.0	1 1.0				100 100	227
	2	西部印度洋	1°—10°S 46°—71°E	51				1 4.3	3 13.0		4 17.4		10 43.5	4 17.4	1 4.3					23 100	126
	3	30°—35°N 150°—180°E	29°—35°N 150°—176°E	57							4 18.2	4 18.2	3 13.6	7 31.8	2 9.1	2 9.1				22 100	24
	6	伊豆東方	30°—37°N 139°—152°E	90		1 5.3			2 10.5	1 5.3	5 26.3	3 15.8	5 26.3	2 10.5						19 100	19
	4	南海々区	29°—33°N 133°—140°E	48					1 4.3	3 13.0	10 43.5	3 13.0	4 17.4	2 8.7						23 100	25
	40	西部太平洋	19°—32°N 134°E-179°W	685	5 0.6	65 7.8	76 9.2	17 2.0	133 16.0	142 17.1	194 23.4	69 8.3	87 10.5	32 3.9	10 1.2					830 100	1054

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回數		80 cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm以上	計	漁獲尾數
	4	30°— 40°N 180°—140°W	28°— 32°N 179°—146°W	103	尾數 %			4 3.3	3 2.4	10 8.1	4 3.3	6 4.9	9 7.3	5 4.1	19 15.4	13 10.6	11 8.9	14 11.4	25 20.3	123 100	132
	3	ミッドウェー	28°— 31°N 178°E-169°W	75		1 1.5			2 2.9	8 11.8	3 4.4	3 4.4	3 4.4	4 5.9	9 13.2	3 4.4	12 17.6	4 5.9	16 23.5	68 100	72
	3	ハワイ南西 (5°N以北)	5°— 10°N 180°—159°W	69		4 30.8	1 7.7	1 7.7			1 7.7				2 15.4	1 7.7	1 7.7		2 15.4	13 100	17
め	3	南洋北部	16°— 21°N 146°—151°E	53		4 44.4		1 11.1	2 22.2	1 11.1		1 11.1								9 100	10
	10	南洋南部 (170°E以西)	0°— 10°N 134°—172°E	171		23 37.7	4 6.6	3 4.9	1 1.6	6 9.8	7 11.5	6 9.8	4 6.6	1 1.6	2 3.3	2 3.3	2 3.3			61 100	63
	2	南洋南部 (170°E以東)	1°— 10°N 169°—179°E	30				1 16.7			1 16.7	1 16.7	2 33.3				1 16.7			6 100	7
か	5	ソロモン	1°N— 9°S 136°—156°E	94						2 20.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0		1 10.0			10 100	11
	3	小スンダ チモール	8°— 15°S 119°—130°E	57					2 13.3	1 6.7	1 6.7	2 13.3	3 20.0	1 6.7	3 20.0	1 6.7		1 6.7		15 100	24 (28)
	2	ジャワ沿海	8°— 10°S 105°—113°E	45				1 12.5		1 12.5	2 25.0	1 12.5	2 25.0		1 12.5					8 100	9
じ	1	スマトラ西岸	8°— 10°S 93°— 94°E	14										1 10.0						1 100	11
	3	中部印度洋	8°— 12°S 84°— 92°E	58					2 9.1		7 31.8	4 18.2	4 18.2	2 9.1	1 4.5	1 4.5	1 4.5			22 100	31
	2	西部印度洋	1°— 10°S 46°— 71°E	51						1 9.1		4 36.4	2 18.2	1 9.1	2 18.2	1 9.1				11 100	33
き	4	30°— 35°N 150°—180°E	29°— 36°N 148°—176°E	72			3 1.9	8 5.1	7 4.4	17 10.8	21 13.3	25 15.8	25 15.8	12 7.6	14 8.9	11 7.0	4 2.5	4 2.5	7 4.4	158 100	395
	1	東北海区	35°— 37°N 147°—152°E	15								1 1.7	14 23.7	16 27.1	17 28.8	3 5.1	7 11.9	1 1.7		59 100	246
	9	伊豆東方	30°— 37°N 139°—152°E	142				25 5.5	40 8.8	55 12.1	54 11.9	76 16.7	68 14.9	58 12.7	35 7.7	18 4.0	12 2.6	4 0.9	10 2.2	455 100	811
	3	南海々区	29°— 33°N 133°—138°E	35		3 6.7		9 20.0	4 8.9	9 20.0	6 13.3	7 15.6	5 11.1		2 4.4					45 100	62

魚種	測定船數	漁場	操業位置	操業回数		80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾數
めかじき	34	西部太平洋	19°— 32°N 134°E-179°W	568	尾數 %	23 7.3	8 2.6	26 8.3	26 8.3	31 9.9	46 14.7	30 9.6	34 10.9	13 4.2	18 5.8	10 3.2	12 3.8	14 4.5	22 7.0	313 100	373

賞金10万円がつけられた東部太平洋に於けるキハダ鮪とカツオの標識、放流について

米国鮪漁船組合はアメリカ鮪漁船の協力によつてカルフォルニヤよりペルーに至る東部太平洋に於けるキハダ鮪とカツオの標識放流事業を始めている。標識はA型とB型の2方法により取りつけられ之れに番号が書かれている。即ちプラスチック製の細い管に番号と Return Tuna Comm. San-Diego (この標識をサンチヤゴ鮪漁船組合に返送願ふ)との文字が記入されている。更にこの計画の最も興味あることは返送された標識の送り主に1ドルの禮金が贈られ且つその上に毎年抽籤による當選番号の標識の送り主に対しては現金300ドル(約10万円)の現金が贈呈されるといふことである。



この標識はプラスチック製の小さな管で作られA型 B型共違つた色合いのもので魚の才二背びれの後部に取付けられている。再捕した標識は鮪組合役員に手渡しても又鮪組合宛に郵送してもよろしい。

鮪漁船組合は毎年組合の定める期日と場所に於て抽籤を行ふが1957年3月1日から12月31日の間に返送されたものが1957年の抽籤分に入り其の后の各年間に返送される標識はすべてその年の抽籤分に加へられる。

抽籤方法は鮪組合により決定された公平な方法によつて実施それ、この當選者には現金300ドルが賞金として贈呈される。

抽籤方法、結果等に關するすべての事項については組合決定が最終的なものであり、組合は抽籤に關して法的責任を持たないと同時に何時にてもこの計画を中止することが出來ることに定めている。

(コンマーシヤル、フイシエリース、レビユー誌5月号より)

営　業　種　目

船舶・陸上

冷凍・冷藏・製氷・冷房

冷凍・冷藏・製氷工場
急速・空氣凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷藏

設計　製作　施工

協同低溫工業株式会社

本　社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電　話　下　谷　(83)　0996番

まぐろ延縄には漁材科學の生んだ

比重調製と樹脂加工を併用した延縄

アサヒテツクスロープを御使用下さい

特　徴

① コールタール染不要
② 着色自由　③ 比重の適正
④ あらゆるロープの中で耐久耐摩耗力は一番すぐれております。

アサヒテツクスロープ株式会社

本　社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話 三浦 957番

※ 説明資料は当鮪漁業研究会に御申込下さい ※

営　業　品　目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造
装　備・補修一式

七洋電機株式会社

取締役社長　滿本英一
取締役　橋本清
取締役　長田孝

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原(78)4103番

太洋無線が世界に誇る

各種　陸上用　航空機用　船舶用

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都澁谷区栄樂町48番地
電話澁谷(46)代表5283—9番

綠星社のSV6型ラジオブイ

用途；鮪延縄・鮭鱒流網・捕鯨・底曳トロール
漁具流失防止　位置確認　操業時間短縮　等々

株式会社　綠星社

代表取締役　吉田内次

研究所　東京都中央区築地5の1（東京中央卸売市場内）
電話（54）2371
營業所　東京都中央区小田原町2の11　電話(54)7679番
函館出張所　函館市根崎町140番地

キハダマグロの体重の印度洋東西間の比較

The Comparison of Body Weight of Yellowfin Tuna for the Western, Middle and Eastern Parts of Indian Ocean

永井三夫・中込淳

（神奈川県水産試験場）

キハダマグロは漁獲後直ちに内臓が除去されるため、眞の体重の測定される機会が少い。従つて、雌雄別の体重や、体重の体長に対する相対成長についての資料においてはより少い。

印度洋に於いては、中部と東部の魚体についてその報告がみられる[1)2)]。

著者は、神奈川県水産試験場試験船相模丸の昭和 31 年 5 ～ 6 月に於ける西部印度洋の魚体についての調査に行を共にした。

その後、此の資料を分析して再整理し、此れに前述の中、東部印度洋の魚体を含めて検討したところ、興味ある結果を得たので此処に報告する。

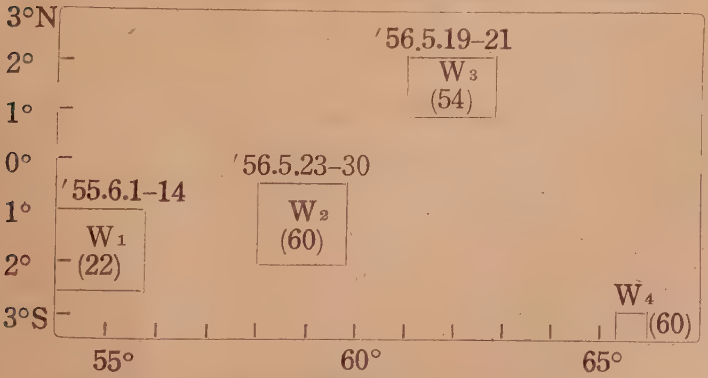
調査に当り、御指導御鞭撻下さつた東京水産大学稲葉傳三郎先生、神奈川県矢板開一水産課長、鮪漁業研究会伊藤順男専務理事、いろいろ便宜をはかつて下さつた若生光一船長に対し、衷心より謝意を表する。

猶、結果のみを参考とする方は、本文中の圖と結論の項を參照すればよい。

資料及び方法

体長は尾叉長（吻端より尾叉底までの長さ）で表わし、單位は cm、体重は釣り揚げて斃死させた後の内臓摘出前に測定、単位は貫、測定した時期、海域、及び、供試個体数は圖 1 に示す。

圖 1. キハダマグロの体重を測定した時期、海域、及び供試個体数



註 1. （ ）内の数字は供試個体数

2. 海域の記号をW_1 W_2 W_3 W_4と表わし本文に引用する

印度洋東西間を比較するために使用した中、東部印度洋の資料は、前者が0°—4°S, 66°—70°E の海域で調査した平野、田川の報告[1)]、後者がスマトラ島南西沖合からジヤワ島南方沖合にかけて調査した鶴田の報告[2)]より、前者30、後者28を任意抽出したものである

結果及び考察

印度洋6海域の体長に対する体重の回帰は圖2、表1に示す。

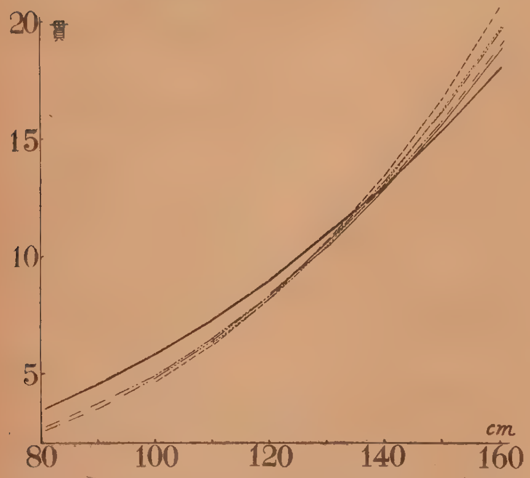


圖 2. キハダマグロの印度洋各海域に於ける體重の體長に対する回歸
W_1 ——— W_2 ……… 東印(E) -·-·-·-
W_3 - - - - W_4 ━━━ 中印(M) -··-··-

相模丸の調査した4海域の魚体についてその海域間で比較すると、表2の第1列に示されているように、修正平均値★1と回歸係數★2の両方に差がみられる★3。しかるに海域W_4を除くと、残り3海域の間では差がなく(表2の第2列)、しかして海域W_3と他3海域の間で比較すると、修正平均値には差がないが、回歸係数に著しい差がみられる(表2の第3列)。

そこで、上記の海域に中、東部印度洋を含めて比較すると、海域W_4を除いた海域 W_1、W_2、W_3、中、東部印度洋の間では差がなく（表2の第4列）、此れらの海域と海域W_4の間には修正平均値にも回歸係数にも著しい差がみられる(表2の第5列)。從つて、海域W_4のみが回き係数が特に小さく、体長の135cmより小さい魚体は他海域より体長に対する体重が大きく140cmより大きい魚体は他海域より体長に対する体重が小さい（圖2)。

しかるに、西部印度洋各海域に於いて、体長に對する体重の回歸を雌雄間で比較すると海域W_4は、有意差★3こそみられないが、他海域に比べるとその差は特に大きい(表3)。

そこで、体長に対する体重を、雌雄各々体長組成と体重組成に分析すると、体重組成は圖3、圖4、のようになる。体長組成については既に報告した3)ので、此処では設明のみで圖は省略する。

表 1. キハダマグロの印度洋各海域に於ける体長に対する体重の回歸方程式

海域	回歸方程式
W_1	$y = 0.19704\ x^{2.882}$
W_2	$y = 0.17325\ x^{3.215}$
W_3	$y = 0.18447\ x^{3.048}$
W_4	$y = 0.24594\ x^{2.414}$
M	$y = 0.18860\ x^{2.993}$
E	$y = 0.19841\ x^{2.867}$

M： 中部印度洋　E： 東部印度洋

表 2. キハダマグロの体長に対する体重の回歸の、印度洋東西海域間の比較

列	比較海域		修正平均値		回歸係数	
			F4)	F(0.05)	F	F(0.05)
1	W_1, W_2, W_3, W_4	全海域間	3.242	2.67	339.408	2.67
2	W_1, W_2, W_3,	全海域間	1.462	3.91	1.327	3.91
3	W_1, W_3, W_3, — W_4	両海域間	3.713	3.89	1061.022	3.91
4	W_1, W_2, W_3, M, E	全海域間	0.521	2.41	1.890	2.41
5	W_1, W_2, W_3, M, E—W_4	両海域間	13.394	3.89	20.215	3.89

先ず雌に於いては、体重組成は体長組成程差が大きくないが、体長組成、体重組成共に、海域がW_4からW_1へと西に移る程大型へと移つて居り、中部印度洋については体重組成も体長組成と同形で西部印度洋とそれ程異つていない。又、海域W_4の特異現象はみられない。しかし東部印度洋は体長組成、体重組成共に西、中部印度洋と非常に異つている（圖３）。

雄に於いては、体長組成はどの海域も雌より大型の方にあるが、海域間の差は雌と殆んど同形である しかるに体重組成は、中、東部印度洋は分散★4 が大きく西部印度洋と稍異つて居り、又モード★5が 9.0—10.0 貫と 14.0—15.0 貫にある海域W_1、W_2、W_3に対し、海域W_4は 10.0—11.0 貫にのみモードがあり、分散が小さく組成が密集している（圖４）。

圖 3. キハダマグロの印度洋各海域の体重組成（♀）

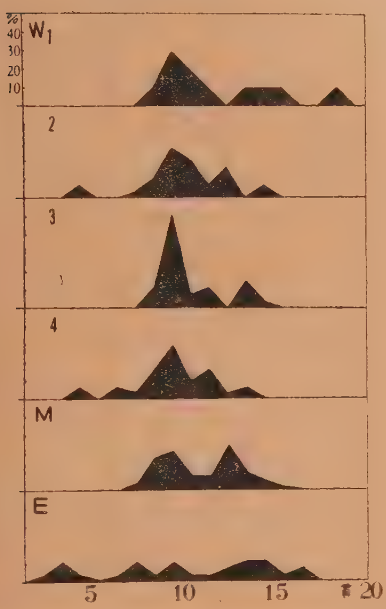
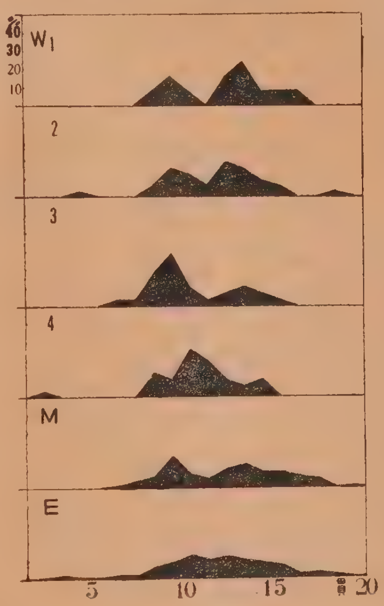


圖 4. キハダマグロの印度洋各海域の体重組成（♂）



従つて、東部印度洋は体長、体重組成に於いて西、中部印度洋と著しく異つて居る。中部印度洋は雄の体重組成のみが西部印度洋よりむしろ東部印度洋に近似して居るが此れは西部印度洋東部印度洋との差があまり大きくないから問題とする程ではない。しかして海域W_4は、雄の体重組成に於いてモードが 10.0—11.0 貫にのみあり組成が密集しているため、体長に対する体重の回歸が他海域と異つている。

表 3 キハダマグロの体長に対する体重の回歸の印度洋各海域に於ける雌雄間の差

海域	修正平均値 F	修正平均値 F(0.05)	回歸係数 F	回歸係数 F(0.05)
W_1	2.242	4.38	0.004	4.41
W_2	★1 6.386	4.02	0.323	4.00
W_3	1.703	4.02	★2 3.038	4.03
W_4	0.429	4.00	0.403	4.00

★1 1個体棄却すると2.188となり著しい差とは思われない
★2 FはF(0.05)より小さいが他海域に比較すると著しく大きい

註 ★ 1. 平均体長に対する平均体重　★ 2. 回歸曲線のこう配、即ち、成長の程度
★ 3. FがF(0.05)より大きい時の各者の差は何か意味を持ち、小さい時は意味をもたない
★ 4. 体長や体重等に於いて、平均より大きいものや小さいもの又は重いものや輕いもののある程度
★ 5. 最も尾数の多い体長や体重

結　　論

以上の結果から、東部印度洋の魚体は、中、西部印度洋の魚体と異つて居り、海域 W_4 の雄の群は、生態的に海域の雄と異つた状態にあるものと推察される。

文　　献

1) 平野　修, 田川昭治：水産講習所研究報告　**6** (1), 1956.

2) 鶴田三郎：水産講習所研究報告　**4** (3), 1955.

3) 中込　淳：日本水産学会誌に投稿中, 近く本誌に投稿豫定, 1957.

相模丸による大西洋鮪漁場開發事業第四次航海の概要

神奈川県水産試験場漁撈部

月日	回数	位置	氣象 天候	氣象 氣圧	氣象 氣温	海象 風向力	海象 水温	海象 波浪	漁獲物 キハダ	漁獲物 メバチ	漁獲物 ビンナガ	漁獲物 カジキ	漁獲物 クロマグロ	漁獲物 合計	漁獲高	縄數	備考
6-16	1	01—46 N 07—35 W	bc	1011	25.9	SSE 2	27.8	2	179	4	3	6		192	2700	380	6月7日ブラジル国レシフェー港発沖え
17	2	02—00 N 07—34 W	bc	1010	26.5	S/E 1	28.1	1	25	2	1	3		31	450	380	18日適水
19	3	01—55 N 10—22 W	c	1009	26.7	SSE 2	27.6	3	20	3	9	12		44	500	350	
20	4	01—50 N 09—25 W	b	1009	25.8	SSE 2	27.6	2	152	1	1	8		162	2300	350	
21	5	01—56 N 09—25 W	bc	1011	25.6	SSE 3	27.8	3	204		12			216	3500	350	
22	6	01—47 N 09—19 W	c	1010	25.8	SSE 2	27.8	3	180		3			183	2600	240	23日漂泊
24	7	01—53 N 09—45 W	b	1010	24.6	S/W 3	27.1	2	256		3			259	3500	280	
25	8	01—52 N 09—45 W	b	1009	25.5	SE/S 3	26.6	2	38	3	4	7		52	600	180	
26	9	01—54 N 09—59 W	c	1010	25.3	S/E 3	27.3	3	151		2		4	157	2000	300	
27	10	02—54 N 09—34 W	c	1010	25.0	S/E 3	27.2	3	90	6	6	10		112	1700	320	
28	11	02—57 N 09—07 W	b	1010	24.5	SSE 2	26.3	3	22	4	7	4		37	500	350	
29	12	01—59 N 09—56 W	b	1010	24.0	SSE 2	26.2	3	160	9		4	8	181	2500	380	
30	13	02—13 N 10—05 W	bc	1010	24.8	SSE 3	26.4	4	316	1	1			318	4500	380	1日漂泊

7- 2	14	03—07 N 10—13W	bc	1011	24.3	SE/S 3	26.2	3	107	2	2	2	4	117 2000	330	
3	15	02—00 N 10—08W	bc	1012	24.7	SSE 3	26.2	3	138	3	1		2	144 2000	340	
4	16	02—45 N 09—55W	bc	1011	24.3	S 2	26.2	2	92	1			3	96 1500	340	
5	17	01—53 N 10—57W	bc	1012	23.8	SSE 2	26.2	2	56	1	3		3	63 1000	380	6 日適水
7	18	01—43 N 07—35W	bc	1012	25.0	SSE 2	27.9	3	22	1	4		4	31 400	360	8 日適水
9	19	01—42 N 03—23W	c	1011	25.0	S 3	26.6	3	74	9	2		8	93 1400	380	
10	20	02—00 N 04—05W	bc	1010	25.5	S/E 3	26.8	3	64	3	1	1	5	74 1100	380	
11	21	02—00 N 03—28W	c	1009	25.7	S 3	26.6	4	125	6	9		9	149 2200	365	
12	22	01—59 N 03—50W	c	1009	25.0	S 3	26.4	4	362	1	5			368 5000	380	13日漂泊
14	23	02—26 N 03—30W	bc	1010	24.9	S/E 3	26.6	3	153	1	2			156 2000	340	
15	24	01—59 N 04—41W	c	1009	24.6	SSE 4	26.3	4	134	3	2			139 1800	320	
16	25	02—00 N 04—02W	c	1009	24.1	S/E 3	26.1	3	80	1	3	2	14	100 1500	360	
18	26	02—17 N 03—01W	bc	1009	24.5	S 2	26.5	2	357	1	1			359 5000	370	
19	27	02—00 N 03—05W	c	1008	24.5	S 3	25.8	3	85		3			88 1500	220	20日漂泊
21	28	01—58 N 02—48W	c	1010	25.0	SW/S 1	26.2	1	259	4		2		265 5000	360	
22	29	02—04 N 02—49W	bc	1010	24.8	S 3	26.4	3	206					206 3500	340	8月9日イタリー国レグホン入港豫定
								計	4107	70	90	61	64	4392 64 250	9805	4 本 付

總釣鈎數 39220 本　總釣獲率 11.2

随　筆

三　枚　の　絵

岩　吉　松　之　助

「点々3年，棒7年」と南画に見られるあの細い点と棒のタッチをどうやら一人前に画き得るためには一点をマスターし棒を画面に現わすのに，点の習得に3ヶ年を必要とし棒に至っては7ヶ年もかかると言うのである．

（河童の処女）

あながち画家の道の困難さ芸道の厳しさを兎角に尤もらしく論ずるまでもなく，なんの道でも一朝一夕になし遂げ得るものではない．鮪の寿司握りでも寿司屋の店先で見ていると誰にでも出来る簡単なことのようであるが，試みに鮪の寿司を素人が握ってみると直ぐ分かるが，あれは大変難しい．鮪の肉を切るにしても鮪の種類によって庖丁を入れる呼吸がそれぞれ異なるものである．どの鮪もこの鮪も一様に庖丁を入れると刃物の通った肉の艶とその肌が旨みを失って了う．ゼリーを切ったようにつるつると光るくろまぐろの赤味の肉は薄刃の鋭い庖丁で一気に切ったのがよく，バチの大とろは稍々呼吸を緩めて二段，三段とあまり鋭くない刃をゆっくり入れると霜降り模様の桃色と白色が交互に綾を織りなして浮き上って来る．大とろは白身と赤味が大海にうねる浪のようなのがよく，又は縮緬肌にささくれて白味赤味がきしめき合っているのが旨い．鋭い刃物でバッサリとやったらこの感触は出て来ないし，脂が光るだけで口に入れる前から不愉快なぬれぬれとしたあぶらを感ずるだけで，思わずしようがのさんばい酢に指先きが出るというものである．

寿司の味い方に至ってはさらに難しい．親指，中指，人差指の3本で寿司をつかむのだが，親指と中指の2本で抱きかかえるように寿司を取りあげると，シャリ（飯）の上に乗っている肴がまるで生き物のように頭を持ちあげる．頭が持ち上って了うと大変である．シャリはむらさき（醤油）の水分を含んでバラバラに散ろうとする．指先から寿司は飯台の上に墜落してあたり一面米粒が散乱する．見るに忍びなく惨状を呈することになる．こうなっては大変だから，シャリの上の肴が頭をもたげる隙を与えもやらず人差指で軽るく宜敷く抑えるとよろしいという寸法である．頭を抑えて，寿司を右廻転にひっくり返えし尻尾の方から食べるとまずまず無難である．もとより鮪の寿司に頭とか尻尾とか有る筈はないのだが，この心得で賞美すると，寿司は生き物のように生々しく躍りあがってその味もまた格別と新鮮なのである．

「点々3年，棒7年」の南画の話がとんでもない鮪寿司の話になって了ったが要するところは，何事でも一応の会得と悟道に至るには並々ならぬ努力が必要であることを言い度かったのだが，本文を掲載する雑誌が鮪漁業研究会から出されている〝鮪漁業〟と号する会誌なので，つい鮪の話が出て了った．再々，三崎のI氏から原稿の依頼があり何か書きましようと約束したものの研究会誌〝鮪漁業〟に相応しい題目もなく先般来，続稿している本誌掲載の「素人の観た三崎港」の完結を急いでいるものの再度の実地踏査をせねばならぬがその機会に恵まれぬので，鯛物語と題して鯛の生態を人間社会にあて嵌めて一文を綴り度いと考えている以前からの念願をI氏からの催促に甘えて文字にする積りでいたら，鮪に明けて鮪に暮れる三崎の〝鮪漁業〟に鯛の話も変だと思ったので，子供の絵の話でも書こうと思い，三枚の絵と題して，いかにも博学らしく点々3年，棒7年と書き出したら，こうしてペンを走らせているうちにも三崎の景色が頭のなかに浮び出し，原稿用紙の枠の形，つまり四角形が，昨晩飲み過ぎて睡眠不足しているので，目がちらついて四角形

は伸び縮みし，文字を嵌めるのに骨が折れ，どうかすると四角形やら長方形やらの魚函に見えるのみならず鮪の刺身の嗅いまでするので愈々当惑した．

時計を見ると午前2時，今から家を抜け出して刺身1皿，銚子1本とバチの大どころ寿司2,3個の立喰も時間が遅くて出来兼ねるので，腹も減ったし煙草ばかりふかしていると益々ぼんやりなるので，井戸端へ顔を洗いに行ったら，ふと思い付いたのが押入の中に梅焼酎があることである．焼酎を飲んで元気をつけ「点々3年，棒7年」の結論をつけねばならぬと，焼酎を口にすると案外に口当りがよく2杯飲んで了った．頭脳が極めて明瞭になり，ペンの滑りも順調だから一気に書き始めたら南画の理論を書く筈のところ鮪談議になって了った．

深々と夜はふけ，遠くの方で犬の吼える声がする．風も吹かない．夕方まで降り続けていた雨も降り止んで物音一つしない．新宿駅から中央線を甲州方面に向う貨物列車が昼間は少しも聞えぬのだが，思い出した様に巨人の足音を夜蔭に重々しく響かせて遠くへ消え去る．犬も啼かない，夏とは言え薄すら肌寒く墨汁の深海に閉じ込められて静寂の地の涯を独り歩るく気持に襲われていると，ペンを走らせている机の上に置いてある3枚の子供の絵その一つは河童の処女が胸を抱き，眉を長く垂れ三角形の唇を歪めて苦笑している絵，も一つの絵は夏の夜空を飾る花火の絵，のこりの1枚は団扇を持って踊っている2人の子供の絵である．

この3枚の絵が机の上から音もなく畳の上に滑り落ちた．昭和28年の2月生れだから4年5ヶ月の女の児だが，2年8ヶ月頃から一通り恰好のついている絵を画くので不思議に思いながらもスクラップに保存して已に4冊にもなっている．最近描き出した河童の絵は，此の世に河童という実在の動物があろう筈もなく，雑誌の挿絵やら新聞の広告絵などを見せて河童を納得させようとしても．変なもの，恐いものと言って模写して描くのを嫌がり，幼稚園の遠足で動物園に行くと池の中に河童がいるから見ていらっしゃいと言うと，漸く納得したが遠足から帰って来たので河童はいたかと尋ねるといなかったと至極当り前の返事なのである．私は玩具屋から買って来た河童の人形を見せてようやくのことで画いて貰ったのが，〝苦笑する河童の処女〟の絵であった．生れてこのかた花火を見たことのないのに花火の絵を画かせるのは無理な話である．写真を見せたり，絵を見せたり，玩具屋から花火を買って来て庭の暗がりで光からせて，画き上ったのが花火の絵であるが何んとなく浴衣模様の菊の花のようになって了った．団扇を持って踊っている絵は一通り絵になっている．私は団扇を持って恰好をつけさせられ散々モデルにさせられた．親馬鹿も此処に至っては至れり尽せりであったが，出来上った絵を見ると，親父変じて女の児の躍る姿であり，パパよりも姉ちゃんがよいとの御託宣であった．私は団扇を持っている恰好だけのモデルとなっていたのである．

河童と花火と団扇の夏の夜の景物は，4年5ヶ月の女の児の芸術であり，全くの創作であるが，鮪の刺身のつくり方と鮪寿司の食べ方を，九州肥前国（長崎）の生れである私は，東京に遊学するまで22年間の長い間，鮪の刺身は言うまでもなく，切身の照焼も，煮物も食べることを禁ぜられていたのである．まぐろのことを〝しび〟と称し，最も下等な魚であり人間の糞を好むこと豚と同様で不潔極まりないから食べてはならぬとされていた．30年前のことである．東京の土を踏んで30年に垂々とするが，30年前始めて寿司屋の暖簾をくぐり鮪の大とろを食べたがあまり不味いので閉口し，さりとて食べないのも悪るいような気がして御茶で流し込んだ最初の経験から，大とろ霜降りの3段斬り庖丁の切味を悟るまでには優に30年の歳月を経過している．誰から教えられるまでもなく自分自身の体得であるが，一つのことに自信を持つのは並大抵のことではない．

絵の話と鮪の話が交互に出て来る夏の夜の駄弁は，怪談より多少なりとも現実的科学的であると思っている．夜も段々と深くなり今暫らくで夜も白むであろうし，梅焼酎の酔いも廻わって鼻歌でも歌い度くなったが，寝ている子供が目をさますと，夜中であろうと，昼間であろうと時間の観念を超越して一切御構いなしに，画帖を取り出し絵を画き始めるのでその御相手は私の明日の会社勤めもあるから到底出来そうにもない．「雨が降るふる城ヶ島の岬」と鼻歌一つやり度くなったが，声を咽喉におさえて3杯目の梅焼酎を水に割って飲み干した．

再び雨が降り出したのだろうか軒先にざわめきが聞える．物干竿が揺れるのだろうか，雨戸を微かに叩く音がする．夜明前の冷気が，閉め切ってある雨戸を通り抜けて部屋の中に忍び込んで来る．梅焼酎はつめたく舌の上を流れて咽喉をうるおす．畳の上に落ちている河童の処女はよく見ると足がない．腕の関節が人間よりも一つ多い．シエクスピアの描き出した妖女なのかも解らぬ．私もこのあたりで真夏の夜の夢を閉じたい．（株式会社光電製作所 総務課長）

業　界　メ　モ

1957年8月

8月2日　福島県水産試験場では，7月24日飛行機で魚群を探索し，原釜沖でマグロ魚群を発見した．

8月2日　マグロ缶詰に関する商社協定は7月31日で期限切れとなったが，通産省では，米国市場に於ける日本のマグロ製品の締出し運動もあるところから無協定での輸出は避けたいとの意向で，31日商社協定を輸出承認事項としてそのまま8月1日から1ケ月間延長することを決め発表した．（日水）

8月3日　水産庁では既報の如く40屯以下のカツオ，マグロ漁業を自由漁業とするという画期的な行政措置を行ったが，業界では，水産庁がカツオ，マグロ業界の安定のために，沿岸と遠洋に明瞭な線をひくことを意図しているのではないかと，今後の出方を見守っている．（水経）

8月4日　最近までに入った商社筋の情報によると，アメリカ西海岸沖合のビンチョウはいぜんとして豊漁で，漁は9月始めまで続く模様である．（水経）

8月4日　国際金融情勢調査のため欧米各国を視察して帰国した社会党漁民部副部長有馬輝武代議士は，「チリーだけは政府が非常に日本に好意的で，日本漁業の受け入れにも積極的である．しかし，チリーの漁業資本家が日本を敬遠し政府に妨害の手を伸ばして居り，しかも，かれらは政府に対しても非常な実力者であるためなかなか具体化しない現状である．又，南米諸国が日本の漁業移民を受け入れることに概して熱意を欠いているのは，消費量が少いことにも原因はあるが，いまだに日本人をかつてのそれとしか理解して居らず好感をもっていないというところに最大の原因があるようである．」と語った．（水経）

8月6日　福島県水産指導船磐城丸は，6日三崎を出港，国際マグロ漁場調査参加のため，南米ペルー方面に向かった．（港報）

8月12日　神奈川県水産試験場永井三夫場長と同資源部鮪担当では，相模丸（船長若生光一）より送られて来た資料をもとに大西洋赤道附近のマグロ資源の分布状態を調べ，現在迄に明らかとなった点を報告した．（本誌42号を参照）（朝日，港報）

8月12日　水産庁の東光丸は中南米の未開発漁場を調査してさる7月25日に帰港したが，この程その調査概況を発表した，ブラジルでは，南ブラジル海棚における底魚漁場，東部沖合海域のマグロ漁場，アマゾン河口沖合バンクの底魚漁場，ドミニカでは，トロール，エビ漕網，マグロ延縄，及び陸上調査である．（日水，水経）

8月12日　米連邦通商委員会が11日発表したところによると，米西海岸のマグロ産業界はマグロ価格を協定値段で決定することを禁止した連邦通商委員会の命令に従うことに同意した．（朝日）

8月14日　日冷では南米ブラジルのレシーフェを基地に合弁会社を設立することとなり，話を進めていたが，このほどインダストリア・ブラジレーイラ・デ・ペスカ・エ・フリオス社へ現物出資して資本金を27,500万円に増資することとした．又，キューバのフォーズン・フォース社と提携してペスケーラ・インターナショナル・フイシュ社を設立することになり，獣肉加工工場を設けて，日本の大西洋へ進出している漁船からキハダ以外の各魚種を買入れ加工することとした．（日水，水経）

8月15日　急速冷凍製品により計画生産を図り，キャッチャーを使用し生産単価の引き下げなど漁業経営の合理化を進め，固定給プラス賞与として船員の生活の安定を図った第1昭和丸（1000屯）は15日焼津港を出港した．（水経）

8月17日　水産庁漁船研究室葉室技官は，21黒潮丸に乗船し．マグロ延縄の縄成りその他について実験を行って来たが，その概要を発表した．（水経，日水）

8月20日　第5日光丸は8月末出港して暴風圏操業を敢行する．30°〜40°Sの海域は既に2，3の船が操業しているが，非常に注目される海域である．（港報）

8 月27日　第12住吉丸がキューバと試験操業を契約，キューバの漁業発展のためにつくすこととなった．（水経）

8 月28日　鹿児島海上保安部では新しい試みとして，海流観測に当り，海流瓶のかわりに，ビニールかポリエチレンの袋にパチンコ玉 1 個をおもりとして入れ，調査用の葉書を同封して，海中に投ずることになつた．（水経）

8 月29日　串木野市漁協や船主の発表によると，7 月中頃から始まった三陸沖のクロマグロ漁はふるわないようである．（水経）

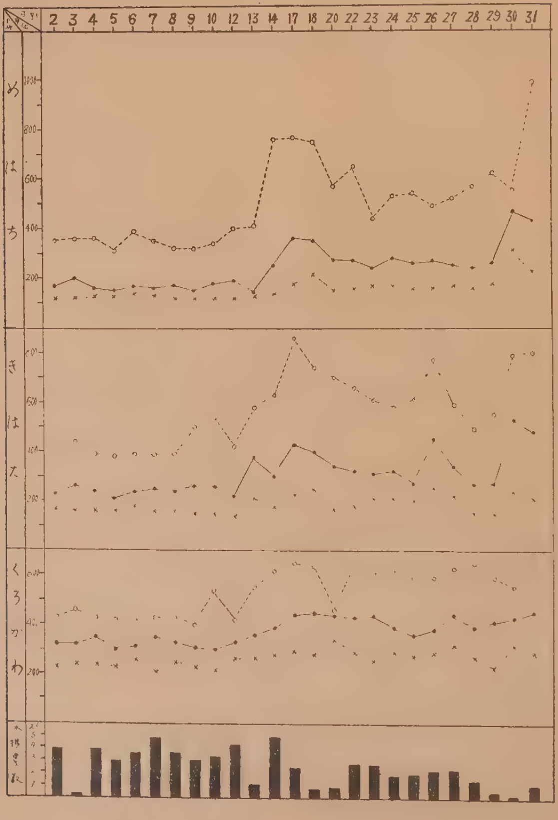
8 月29日　三崎港所属マグロ船の船長は，シャチを撃退するため鉄砲の使用方を陳情しようと協議している．（港報）

8 月30日　日米マグロ会談に政府代表として出席して27日帰国した奥原水産庁次長は記者会見を行って会談の模様につき発表した．（日水）

8 月30日　外務省に入ったロスアンゼルス総領事からの連絡によれば，バンキャンプ缶詰会社は共同宣伝計画から脱退することに決定した．（日水）

8 月31日　アメリカの標識をつけたキハダマグロ，カツオを捕らえ標識を返送すると 1 ドルの礼金が贈られ，その上，毎年抽籤による当選番号の標識の送主に対しては現金 300 ドルの賞金が贈呈される旨，コンマアシャル・フイシエリース・レビユー誌に発表されている．（港報）

（担当者　伊藤，中込，石渡，三堀）



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十二年八月

本会の図書誌の分譲其の他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

会　　誌　【鮪 漁 業】　第 6—43 号（第1—5号品切）{第6—28号各100円 郵送料16円 / 第29—43号各150円}

鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）
　1 部　300円　（B 5 判 150 頁）　郵送料　24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）
　1 部　400円　（B 5 判 226 頁）　郵送料　40円

鮪類水揚地調査報告（自昭和29年4月　至昭和30年3月）
　1 部　300円（送料を含む）（B 5 判 126 頁）

*上記の昭和28年度、29年度、30年度分3冊一括購入の場合　特価 800円（送料共）

漁 場 天 気 図（東部印度洋、25°N—25°S　西部太平洋 80°E—150°E）昭和 29 年 8 月版
　1 部　250円　（B 3 判 50 枚綴）　郵送料　48円

鮪 漁 船 操 業 図　（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
　1 枚　50円　郵送料　8円

鮪　漁　場　図　（32 海区劃に表示したもの）
　10 枚　100円　郵送料　16円

—— お　願　い ——

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

◎本年三月発行の鮪類水揚地調査報告昭和30年度版は昭和28年度、昭和29年度分と共に鮪漁業教書として関係の方々には是非座右に備付けられるようお薦め致します。御希望の向は代金 300 円（送料を含む）を添えて本会宛御申込下さい。

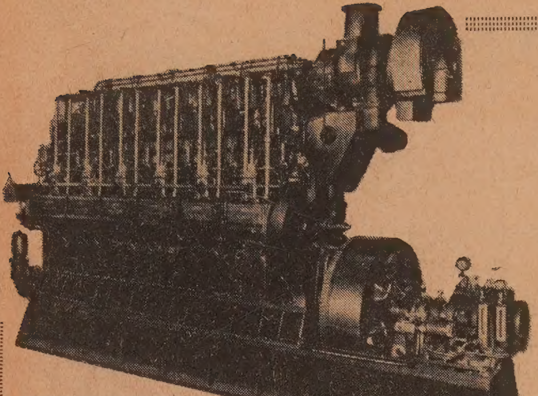
◎大変恐縮ですが会費第2年目（昭和30年分1,200円）第3年目（昭和31年分1,700円）未納の方は本会宛払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。

鮪 漁 業

1957年9月号

昭 和 32 年 9 月 10 日 印 刷
昭 和 32 年 9 月 10 日 発 行

監　修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅　野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪 漁 業 研 究 会
（振替貯金口座横浜　1 4 7 2）



船舶用6ZS型1200BHP過給機付
ディーゼル機関（クラッチ付）

ハンシン
ディーゼル

陸船用ディーゼル

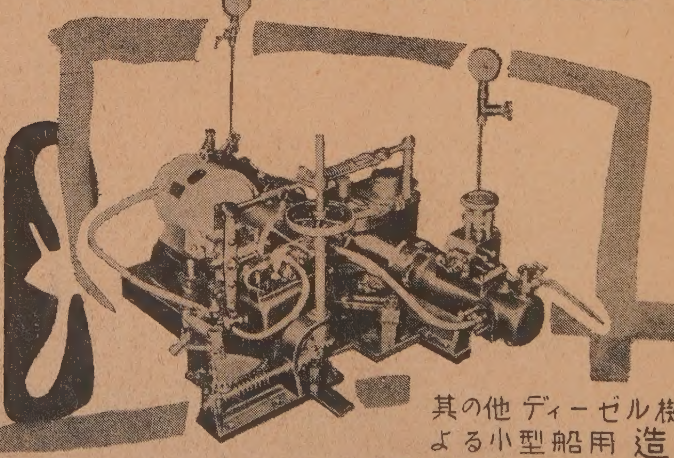
50 HP——2400 HP

阪神内燃機工業株式会社

本　社	神戸市長田区一番町3丁目1	電話 湊川（5）1531—6
東京支店	東京都千代田区丸ノ内・丸ビル601区	電話和田倉（20）3640—1
下関出張所	下関市豊前田町・第一ビル内	電話　下関　768

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

1HP～3HP



其の他ディーゼル機関の排気利用による小型船用造水装置

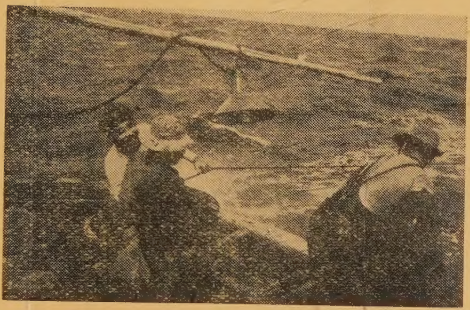
川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四(電)湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電)（59）6101
（本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します）

倉敷 ビニロン

クレモナ万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網



クレモナ鮪延縄　神奈川水試江の島丸

くさらない

使いやすい

値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）

東京事務所　東京都中央区日本橋室町 2の4

▷最高の技術══永い信用◁

営業種目

- VHF新聞通信社用
- ビーコン装置
- 超短波通信機
- 極超短波通信機
- 高級無線用測定器
- 放送施設一式
- 船舶用無線機
- ラジオヒーター
- 高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話 砧（41）（代）7171—9番

東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町 9　電話 武蔵調布 472番

大阪出張所　大阪市北区中之島2の25（江商ビル508号室）　電話 芝（43）代表7373—9番

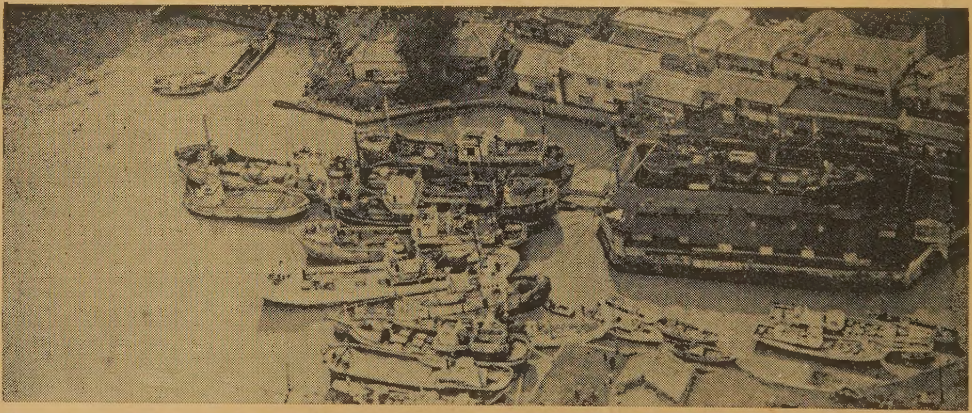
福岡出張所　福岡市天神町55（伊藤ビル）　電話 北浜（23）4553番

電話 中（4）2589・8198番

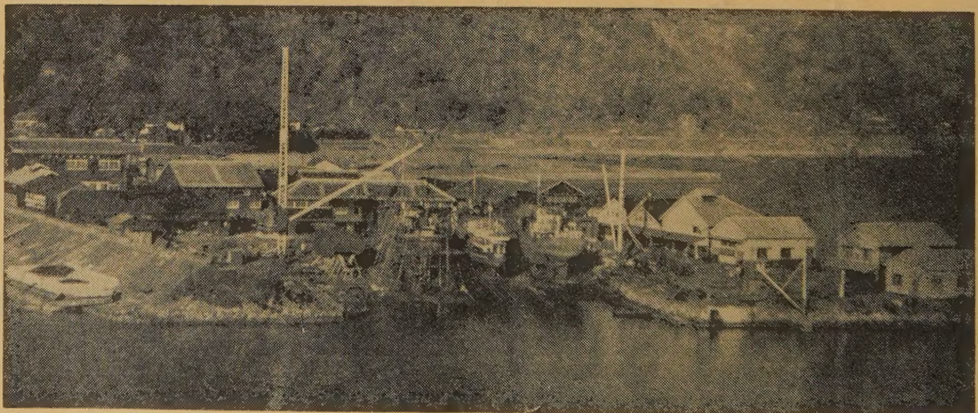
紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株　式　會　社　　泉　井　鉄　工　所
高　知　県　室　戸　町

漁船の建造修理の御相談は



ドライドツク　一
総噸数七〇〇噸
長五九米　巾一四米　深六・六米



船台に使用の場合
長四〇米 巾七・五米(四〇〇屯)
二条軌条式(二五〇屯)　二
四条軌条算盤式(五〇〇屯)　二
船架(船台兼用)

下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社工場　電話下田 9・10・53　武ケ浜工場　電話下田 77・242
東京事務所　港区芝田村町 4 の 13　電話 (43) 2539・8655